# 国立ハンセン病資料館 重監房資料館

2021年度 年報

国立ハンセン病資料館

# 目 次

第1部	部 国立ハンセン病資料館	03
第]	1章 国立ハンセン病資料館の概要	
I	目的・理念・求められる資料館像・機能	
	運営委員会	
Ш	国立ハンセン病資料館管理運営規程	10
	′組織	
	· 沿革···································	
VI	「これまでの主な事業 ····································	
VII	「施設概要 ····································	22
第2	2 章 2021 年度事業	23
I	教育啓発機能	23
	1. 団体見学対応 2. 語り部活動・講義	
	3. シンポジウム・講演会等の開催 4. 資料の貸出	
	5. 学校教育との連携	
П	展示機能	28
	1. 常設展示 2. 企画展示・特別展示	
ш	· □ · □ · □ · · · · · · · · · · · · · ·	31
•	1. 資料の収集	
■ 17.7	2. 収蔵資料の保存・管理 「 <b>調査研究機能</b>	0.0
IV	<b>調宜听先機能</b> 1.収蔵資料に関する調査	33
	2. 企画展・催事開催のための調査研究 3. ハンセン病問題・博物館に関する調査研究	
V	情報センター機能	35
•	1. 国立ハンセン病資料館公式ホームページの運用	00
	2. 情報提供・検索システム関連業務 3. 図書室の管理・運営	
	4. 印刷物の発行・配布	
VI	[ <b>管理・サービス機能</b> ····································	37
	<ol> <li>施設管理・運営</li> <li>アンケートの実施</li> </ol>	
	3. 施設貸出 4. その他	
VI		39
	1. 広報活動	
<b>17</b> 11	2. 博物館施設、関係諸機関との連携	40
AIII	【2021 年度利用状況 ⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯⋯	40

第1章 重監房資料館の概要	第2部 重監房資料館
■ 運営委員会 13 ■ 重監房資料館管理運営規程 44 ■ V 組織 47 ■ V 沿革・これまでの主な事業 48 ■ VI 施設概要 51 ■ 歴史継承機能 52 ■ I 歴史継承機能 52 ■ L 資料の収集・保存 2. 屋外展示 (跡地) 環境の保全 3. 調査・研究 4. その他 11 普及客発機能 55 ■ 1. 語り部活動 2. 人権学習の支援 3. 普及啓発のための映像制作活動 4. イベントの開催 5. 学校教育支援活動 6. 広報活動 7. 栗生衆県園との連携 11 再現・展示機能 59 ■ T. 栗生衆県園との連携 55 ■ T. 政クチャー室 2. エントランス・ホワイエ 3. 常設展示 4. 企画展示 5. その他 1. レクチャー室 2. エントランス・ホワイエ 3. 常設展示 4. 企画展示 5. その他 1. ボームページ 2. 広報資料の作成・発行 3. マスコミ対応 4. その他 1. 新型コロナウィルス感染防止対応 4. その他 1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備 1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備 1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備 1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備 56	
■ 重監房資料館管理運営規程 44  IV 組織 47  V 沿革・これまでの主な事業 48  VI 施設概要 51  第2章 2021 年度事業 52  I 歴史継承機能 52  I 歴史継承機能 52  A その他 11 普及啓発機能 55  1. 語り部活動 2. 人権学習の支援 3. 普及啓発のための映像制作活動 4. イベントの開催 5. 学校教育支援活動 6. 広報活動 7. 栗生楽泉園との連携 11. レクチャー室 2. エントランス・ホワイエ 3. 常設展示 4. 企画展示 5. その他 11. レクチャー室 2. エントランス・ホワイエ 3. 常設展示 4. 企画展示 5. その他 1. レクチャー室 2. エントランス・ホワイエ 3. 常設展示 4. 企画展示 5. その他 1. ボームページ 2. 広報資料の作成・発行 3. マスコミ対応 4. その他 1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備 1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備 VI 2021 年度利用状況 65	I 目的・理念・機能
IV 組織	Ⅱ 運営委員会
V 沿革・これまでの主な事業	Ⅲ 重監房資料館管理運営規程
VI 施設概要	<b>Ⅳ 組織</b> ····································
第2章 2021 年度事業 52  I 歴史継承機能 52  1. 資料の収集・保存 2. 屋外展示 (跡地) 環境の保全 3. 調査・研究 4. その他  II 普及啓発機能 55  1. 語り節活動 2. 人権学習の支援 3. 普及啓発のための映像制作活動 4. イベントの開催 5. 学校教育支援活動 6. 広報活動 7. 栗生楽泉園との連携  III 再現・展示機能 59  1. レクチャー室 2. エントランス・ホワイエ 3. 常設展示 4. 企画展示 5. その他  IV 情報発信機能 62  1. ホームページ 2. 広報資料の作成・発行 3. マスコミ対応 4. その他  V 管理機能 63  1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備  VI 2021 年度利用状況 65	■V 沿革・これまでの主な事業 ····································
第2章 2021 年度事業 52  I 歴史継承機能 52  1. 資料の収集・保存 2. 屋外展示 (跡地) 環境の保全 3. 調査・研究 4. その他  II 普及啓発機能 55  1. 語り節活動 2. 人権学習の支援 3. 普及啓発のための映像制作活動 4. イベントの開催 5. 学校教育支援活動 6. 広報活動 7. 栗生楽泉園との連携  III 再現・展示機能 59  1. レクチャー室 2. エントランス・ホワイエ 3. 常設展示 4. 企画展示 5. その他  IV 情報発信機能 62  1. ホームページ 2. 広報資料の作成・発行 3. マスコミ対応 4. その他  V 管理機能 63  1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備  VI 2021 年度利用状況 65	
【 歴史継承機能 52 1. 資料の収集・保存 2. 屋外展示 (跡地) 環境の保全 3. 調査・研究 4. その他	
1. 資料の収集・保存 2. 屋外展示 (跡地) 環境の保全 3. 調査・研究 4. その他  ■ 普及啓発機能 5. 外格学習の支援 3. 普及啓発のための映像制作活動 4. イベントの開催 5. 学校教育支援活動 6. 広報活動 7. 栗生楽泉園との連携  ■ 再現・展示機能 1. レクチャー室 2. エントランス・ホワイエ 3. 常酸展示 4. 企画展示 5. その他  ■ 「特報発信機能 1. ホームページ 2. 広報資料の作成・発行 3. マスコミ対応 4. その他  ■ 「管理機能 1. 赤ームページ 2. 広報資料の作成・発行 3. マスコミ対応 4. その他  ■ 「管理機能 5. 管理機能 6. 6. 「会別では、発行 5. をの他  ■ 「管理機能 5. 「会別では、発行 5. 「会別では、、発行 5. 「会別では、、発行 5. 「会別では、、、会別では、会別では	
3. 調査・研究 4. その他  II 普及啓発機能 55 1. 語り部活動 2. 人権学習の支援 3. 音及啓発のための映像制作活動 4. イペントの開催 5. 学校教育支援活動 6. 広報活動 7. 栗生楽泉園との連携  III 再現・展示機能 59 1. レクチャー室 2. エントランス・ホワイエ 3. 常設展示 4. 企画展示 5. その他  IV 情報発信機能 62 1. ホームページ 2. 広報資料の作成・発行 3. ママミ対応 4. その他  V 管理機能 63 1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備  VI 2021 年度利用状況 65	1. 資料の収集・保存
■	
1. 語り部活動 2. 人権学習の支援 3. 普及啓発のための映像制作活動 4. イベントの開催 5. 学校教育支援活動 6. 広報活動 7. 栗生楽泉園との連携  ■ 再現・展示機能	
2. 人権学習の支援 3. 普及啓発のための映像制作活動 4. イペントの開催 5. 学校教育支援活動 6. 広報活動 7. 栗生楽泉園との連携  III 再現・展示機能 1. レクチャー室 2. エントランス・ホワイエ 3. 常設展示 4. 企画展示 5. その他  IV 情報発信機能 1. ホームページ 2. 広報資料の作成・発行 3. マスコミ対応 4. その他  V 管理機能 1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備  VI 2021 年度利用状況 65	<u>-</u>
4. イベントの開催 5. 学校教育支援活動 6. 広報活動 7. 栗生楽泉園との連携 <b>Ⅲ 再現・展示機能</b> 59 1. レクチャー室 2. エントランス・ホワイエ 3. 常設展示 4. 企画展示 5. その他 <b>Ⅳ 情報発信機能</b> 62 1. ホームページ 2. 広報資料の作成・発行 3. マスコミ対応 4. その他 <b>V 管理機能</b> 63 1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備 <b>Ⅵ 2021 年度利用状況</b> 65	2. 人権学習の支援
6. 広報活動 7. 栗生楽泉園との連携 <b>II 再現・展示機能</b> 59 1. レクチャー室 2. エントランス・ホワイエ 3. 常設展示 4. 企画展示 5. その他 <b>IV 情報発信機能</b> 62 1. ホームページ 2. 広報資料の作成・発行 3. マスコミ対応 4. その他 <b>V 管理機能</b> 63 1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備 <b>VI 2021 年度利用状況</b> 65	4. イベントの開催
■ 再現・展示機能 59 1. レクチャー室 2. エントランス・ホワイエ 3. 常設展示 4. 企画展示 5. その他  ■ 「特報発信機能 62 1. ホームページ 2. 広報資料の作成・発行 3. マスコミ対応 4. その他  ■ 「中間機能 63 1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備  ■ 「2021 年度利用状況 65	
1. レクチャー室 2. エントランス・ホワイエ 3. 常設展示 4. 企画展示 5. その他  IV 情報発信機能 1. ホームページ 2. 広報資料の作成・発行 3. マスコミ対応 4. その他  V 管理機能 1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備  VI 2021 年度利用状況 65	
2. エントランス・ホワイエ 3. 常設展示 4. 企画展示 5. その他  IV 情報発信機能 1. ホームページ 2. 広報資料の作成・発行 3. マスコミ対応 4. その他  V 管理機能 1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備  VI 2021 年度利用状況 65	
4. 企画展示 5. その他	2. エントランス・ホワイエ
IV 情報発信機能  1. ホームページ 2. 広報資料の作成・発行 3. マスコミ対応 4. その他  V 管理機能  1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備  VI 2021 年度利用状況  65	
1. ホームページ 2. 広報資料の作成・発行 3. マスコミ対応 4. その他  V 管理機能 1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備  VI 2021 年度利用状況 65	
<ul> <li>2. 広報資料の作成・発行</li> <li>3. マスコミ対応</li> <li>4. その他</li> <li>▼ 管理機能</li> <li>1. 新型コロナウィルス感染防止対応</li> <li>2. 施設運用のための必要機能の整備</li> <li>▼ 2021 年度利用状況</li> </ul>	
4. その他  V 管理機能 63  1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備  VI 2021 年度利用状況 65	2. 広報資料の作成・発行
1. 新型コロナウィルス感染防止対応 2. 施設運用のための必要機能の整備 VI 2021 年度利用状況 ····································	
2. 施設運用のための必要機能の整備 VI 2021 年度利用状況 65	
VI 2021 年度利用状況 ····································	.,
利田安山 66	Ⅵ 2021 年度利用状況
利用条約	 利用案内 ····································

# 第1部 国立ハンセン病資料館

# 第1章 国立ハンセン病資料館の概要

# I 目的・理念・求められる資料館像・機能

## 【目的】

「ハンセン病問題の早期かつ全面的解決に向けての内閣総理大臣談話」、「ハンセン病療養所入所者等に対する補償金の支給等に関する法律」前文及び第11条(名誉の回復等)、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」第18条(名誉の回復及び死没者の追悼)に基づき国が実施する普及啓発活動の一環として、患者・元患者とその家族の名誉回復を図るために、ハンセン病問題に関する正しい知識の普及啓発による偏見・差別の解消を目指す。

## 【理念】

- 1. ハンセン病資料館は、ハンセン病に関する知識の普及や理解の促進に努めます
- 2. ハンセン病資料館は、ハンセン病にまつわる偏見や差別、排除の解消に努めます
- 3. ハンセン病資料館は、ハンセン病に対する、古代以来の長年にわたる偏見・差別、とりわけ誤った隔離政策の歴史に学び、苦難や被害を被った人々の体験と、これらに立ち向かった姿を示します
- 4. ハンセン病資料館は、ハンセン病にまつわる苦難や被害を被った人々の名誉回復を目指し、人権 尊重の精神を養うことに努めます
- 5. ハンセン病資料館は、ハンセン病にまつわる苦難や被害を被った人々と社会との共生の実現に努めます

## 【求められる資料館像】

■普及啓発の拠点

ハンセン病に関する中核施設として、各療養所と連携を図りながら、ハンセン病についての医学的知識、治療の歴史、患者・元患者に対する偏見・差別の歴史、その苦難の体験についての情報を社会に示し、ハンセン病への理解を促進する。そして、それをもとに来館者が人権等の問題について考える場を提供する。

■情報の拠点

ハンセン病に関するあらゆる情報を受信・集積し、後世に継承するとともに、同様の取り組みを実施 している国内外の関連組織との連携を図り、広く世界へ発信する。

■交流の拠点

資料館において語り部や患者・元患者との交流を促進する。

## 【機能】

#### ■教育啓発機能

資料の収集保存や調査研究活動等によって得られた成果を、教育啓発を通じて一般に示し、ハンセン病に関する理解促進と偏見・差別・排除の解消を目指す。

#### ■展示機能

教育啓発機能と同様に、資料を収集保存し調査研究活動を行い、その結果得られた成果を展示を通じて公開し、ハンセン病に関する理解促進と偏見・差別・排除の解消を目指す。

#### ■収集保存機能

資料の散逸を防ぎ、適切な形で後世に継承するため、ハンセン病に関わる資料を収集、保存する。

## ■調査研究機能

ハンセン病に関わるさまざまな調査研究を行い、教育啓発や展示活動等、資料館活動に有効なものと する。

#### ■情報センター機能

ハンセン病に関わる情報の受発信と集積を行うとともに、全国の関連機関との連携を図る。

#### ■管理・サービス機能

円滑な資料館運営を行うとともに、利用者の利便性を図る活動を実施する。

#### ■企画調整機能

館内の各活動を円滑に行うための連絡調整や、全国の関連機関との連携促進、資料館の存在・その意義を認知させるための活動を行う。

# Ⅱ 運営委員会

#### 1)目的

国立ハンセン病資料館の運営方針、事業計画、学術事項等に関する議論、検討を行い、円滑な実施を図るために行う。委員の任命および招集は館長が行う。本年度の運営委員は以下のとおり。

#### 2) 2021年度委員(敬称略)

委員長

内田 博文 (国立ハンセン病資料館 館長)

委員(50音順)

赤沼 康弘 (弁護士)

飯塚 賢治(国立ハンセン病資料館 事務局長)

君塚 仁彦(国立大学法人東京学芸大学 教授)

黒尾 和久(重監房資料館 部長)

斎藤 基輝 (厚生労働省健康局難病対策課 課長補佐)

澤田 泉(NPO法人東村山活き生きまちづくり 理事長)

柴田すい子(ハンセン病違憲国家賠償訴訟全国原告団協議会副会長)

平沢 保治 (元国立ハンセン病資料館 語り部)

藤崎 陸安(全国ハンセン病療養所入所者協議会 事務局長)

星野 奈央 (国立ハンセン病資料館 事業部長)

正木 尚彦(国立療養所多磨全生園 園長)

## 3)開催日

第1回 2021年9月9日 第2回 2021年10月14日

第3回 2021年12月15日

## 【参考】ハンセン病資料館等運営企画検討会

#### 1) 趣旨

国立ハンセン病資料館(以下「資料館」という。)の管理運営については、展示機能はもとより 当該資料館の様々な機能を十分に発揮し、活動を円滑に推進すること、諸機能の質を維持しさらに 発展していくこと、利用者の幅広いニーズに応え活発な事業展開を行っていくこと等を念頭に、資 料館の特性を踏まえた管理運営を実現することが必要である。

このため「ハンセン病資料館等運営企画検討会」を厚生労働省が開催し、厚生労働省健康局長の諮問に応じて資料館の運営のあり方等の検討を行い、助言を与えるものとする。

## 2) 参集者(敬称略 50音順)

鮎京眞知子(弁護士、ハンセン病違憲国賠訴訟全国弁護団連絡会)

大谷 礼子(埼玉県立戸田かけはし高等特別支援学校 教頭)

坂元 茂樹(公益財団法人人権教育啓発推進センター 理事長)

島田 馨(座長、元総務省人事・恩給局顧問医)

志村 康(ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会 会長)

鈴木 眞理(青山学院大学コミュニティ人間科学部 教授)

半田 昌之(公益財団法人日本博物館協会 専務理事)

日比野守男(ジャーナリスト)

箕田 誠司 (ハンセン病療養所施設長協会会長、国立療養所菊池恵楓園 園長)

森 和男(全国ハンセン病療養所入所者協議会会長)

渡邊 明彦(公益社団法人日本広報協会常務理事)

## 3)開催日

第1回	2007年11月19日	第2回	2008年3月21日
第3回	2008年12月5日	第4回	2009年3月11日
第5回	2009年10月20日	第6回	2010年5月21日
第7回	2011年5月27日	第8回	2012年5月23日
第9回	2013年5月16日	第10回	2014年5月27日
第11回	2015年5月27日	第12回	2016年6月1日
第13回	2016年12月6日	第14回	2017年1月26日
第15回	2017年3月13日	第16回	2017年6月2日
第17回	2018年2月27日	第18回	2018年5月31日
第19回	2018年12月19日	第20回	2019年5月29日
第21回	2020年1月31日	第22回	2020年11月26日
第23回	2021年3月18日	第24回	2021年9月17日
第25回	2022年3月9日		

## 【参考】展示見直し検討会

## 1) 趣旨

国立ハンセン病資料館は、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」(平成20年法律第82号) 第18条に基づき、ハンセン病及びハンセン病対策の歴史に関する正しい知識を普及啓発し、ハンセン病の患者であった者等及びその家族の名誉の回復を図ることを目的とした施設である。

平成19年の再開館から10年以上が経過し、ハンセン病問題に係る新たな資料や調査結果が多数報告されるなど、展示情報の見直しが必要となっていることから、展示内容について検討を行い、その目的に沿った展示の充実を図るため、「国立ハンセン病資料館常設展示見直し検討会」を厚生労働省が開催する。

## 2) 参集者(50音順 肩書き)

赤沼 康弘 (ハンセン病違憲国賠訴訟全国弁護団連絡会)

蘭 由岐子(追手門学院大学 教授)

石田 裕(天草市立牛堀市民病院 非常勤医師(国立療養所邑久光明園 前園長)

内田 博文(九州大学 名誉教授)

遠藤 隆久(熊本学園大学 名誉教授)

太田 明夫 (ハンセン病問題を共に学び共に闘う全国市民の会 会長)

君塚 仁彦(東京学芸大学 教授)

黒坂 愛衣 (東北学院大学 准教授)

鈴木 利廣(すずかけ法律事務所 弁護士)

竪山 勲(ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会 事務局長)

畑野研太郎(日本キリスト教海外医療協力会 会長)

浜崎 眞実 (カトリック司祭)

藤崎 陸安(全国ハンセン病療養所入所者協議会 事務局長)

#### 3) 開催日

第1回 2020年11月10日 第2回 2021年3月18日

第3回 2021年9月3日

## 【参考】展示見直し検討会ワーキンググループ

## 1) 趣旨

国立ハンセン病資料館常設展示見直し検討会開催要綱の4に基づき、資料館の常設展示の見直しに関する具体的な検討を行わせるため、必要に応じて検討会の下にワーキンググループを開催できるとされており、ワーキンググループのメンバーは、構成員の中から座長が指名する者で構成するものとする。

## 2) 参集者(50音順 肩書き)

赤沼 康弘 (ハンセン病違憲国賠訴訟全国弁護団連絡会)

遠藤 隆久 (熊本学園大学 名誉教授)

君塚 仁彦(東京学芸大学 教授)

黒坂 愛衣 (東北学院大学 准教授)

鈴木 利廣(すずかけ法律事務所 弁護士)

浜崎 眞実 (カトリック司祭)

## 3) 開催日

第1回 2021年11月1日 第2回 2022年1月27日

第3回 2022年2月18日

# Ⅲ 国立ハンセン病資料館管理運営規程

最終改正: 2016年2月25日

(目的)

第1条 この規程は、国立ハンセン病資料館(以下「資料館」という。)の管理運営を円滑に行うため に必要な事項を定める。

#### (事業)

- 第2条 資料館は、「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」(2008年法律第82号)第18条に基づき 国が実施する普及啓発活動の一環として、ハンセン病に対する正しい知識の普及啓発による偏見・差 別の解消及びハンセン病の患者・元患者の名誉回復を図るため、次に掲げる事業を行う。
  - (1) 教育啓発事業

ハンセン病に関する文献、実物(民俗、文書、美術、工芸、建築、遺構等)、模型、写真、フィルム、音声、映像、記事、オーラルヒストリー等の資料(以下「資料」という。)について、常設展示・映像ホールを活用して広く公開するとともに、情報を提供する。また、入所者その他の関係者による語り部活動、医療従事者による看護学校学生への医学的な講義等を通じた教育啓発の推進を図る。

- (2) 展示事業
  - 資料の収集保存、調査研究の成果を常設展示・特設展示等を通じて公開する。
- (3) 収集保存事業

資料の散逸を防ぎ、適切な形で後世に継承するため必要な資料及び図書を継続的に収集し、適切に保存する。

- (4) 調查研究事業
  - ハンセン病に関する事象の調査研究を行い、教育啓発等の活動に有効に資する。
- (5) 情報センター事業

資料館の情報システムを活用した情報の受発信及び集積を行い、国内外の関連施設との連携を図る。

- (6) 管理・サービス事業
  - 円滑な資料館運営を行い、利用者の利便や普及活動の推進を図る。
- (7) 企画調整事業

資料館の活動を行うための連絡調整や全国の関連施設との連携の促進、資料館の存在意義を認知 させるための活動を行う。

#### (年間事業計画)

- 第3条 国立ハンセン病資料館長(以下「館長」という。)は、毎年、翌年度の年間事業計画を作成し、 厚生労働省に提出するものとする。
- 2 年間事業計画には、当該年度の事業計画の大綱、重点施策、テーマに基づく調査研究、企画展・特別展、資料の収集及び保存、普及啓発活動の具体案等を明記する。なお、軽微な場合を除き、年間事業計画を変更しようとするときは、厚生労働省に変更計画を提出するものとする。

(休館日及び開館時間)

- 第4条 資料館の休館日及び開館時間は、次のとおりとする。ただし、厚生労働省と協議して、休館日 又は開館時間を変更することができる。
  - (1) 休館日

毎週月曜日(祝日の場合は次の日)、年末年始(12月29日から翌年1月3日まで)、国民の祝日の 翌日、館内整理日

(2) 開館時間

午前9時30分から午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

(3) 臨時休館日

その他不測の事態及び資料館の維持管理上必要やむを得ない場合があるときは、臨時に休館日とすることができる。

#### (入館料)

第5条 資料館の入館料は、無料とする。

#### (入館の制限)

- 第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。
  - (1) 資料、建物若しくはその附属設備をき損し、他人に危害を及ぼし、又は他人の迷惑になる物品若しくは動物の類(盲導犬・聴導犬等を除く。)を携帯する者
  - (2) 公の秩序又は公共の風俗を乱すおそれがある者
  - (3) その他職員の指示に従わない者および資料館の管理運営上支障があると認められる者

## (入館者への指導)

- 第7条 職員は、入館者に対して次に掲げる事項を守るよう指導しなければならない。入館者がこの指導に従わないときは、退館させることができる。
  - (1) 資料等をき損、または汚損するおそれのある行為をしないこと。
  - (2) 備え付けの備品を勝手に移動させないこと。
  - (3) 所定の場所以外で飲食又は喫煙をしないこと。
  - (4) 大声を発すること、暴力を用いることその他の他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
  - (5) 物品(文書及び図面等を含む。)の販売又は提供をしないこと。
  - (6) 勧誘、寄付募集その他これに類する行為をしないこと。
  - (7) 座込みその他通行の妨害になるような行為をしないこと。
  - (8) 立入りを禁止した場所に立ち入らないこと。
  - (9) 前各号に掲げるもののほか、資料館の運営の妨げになる行為をしないこと。

#### (損害賠償)

第8条 館長は、資料館の資料又は建物若しくはその附属設備等をき損し、又は滅失した者が判明した ときは、その者に対し相当と認める損害の賠償を求めなければならない。 (資料等の亡失・損傷)

第9条 館長は、資料・備品に亡失・損傷その他の事故があったときには、その品名、数量、原因その 他必要な事項を速やかに厚生労働省に報告する。

## (入館者の傷害事故等)

- 第10条 職員は、入館者が館内において傷害を負った場合は、直ちに応急措置を施すとともに、傷害の 状況、負傷者の住所、氏名、連絡先等を事務局長に報告する。
- 2 事務局長は、当面の対策について指示するとともに、事後の措置に万全を期さなければならない。
- 3 前2項の規定は、入館者が病気等のために休憩場所の提供の申し出があった場合について準用する。

## (土地、建物および設備等の管理)

- 第11条 土地、建物及び設備等の管理責任者は、館長とする。
- 2 館長は、土地、建物及び設備等が滅失、損傷した場合は、速やかに厚生労働省に報告し、指示を受ける。

#### (施設の使用)

第12条 館の管理する土地、建物、設備等の施設は、館長が業務運営上必要であると認めるときは、第 三者に使用させることができる。

#### (使用者の責任)

第13条 第8条の規定は、施設の使用者が資料館の施設、設備、資料等に損害を与えた場合について準用する。

## (資料の寄贈及び寄託)

- 第14条 第2条各号に掲げる事業に係る資料(以下「資料」という。)の寄贈を受け入れたときは、寄贈資料受入整理簿に必要な事項を記載し、寄贈者に資料受領書を速やかに交付する。
- 2 資料の寄託は、あらかじめ寄託者と期間を取り決めた上で「寄託資料受入整理簿」に必要事項を記載し、寄託者に資料受領書を速やかに交付する。また、寄託者が期間前に資料の返還を受けようとするときは、寄託物返還申込書を提出する。

#### (資料の管理)

第15条 展示資料・収蔵資料等については、常に温湿度等の管理に注意し、異常が生じた場合は、速やかに対応するものとする。

## (館長への委任)

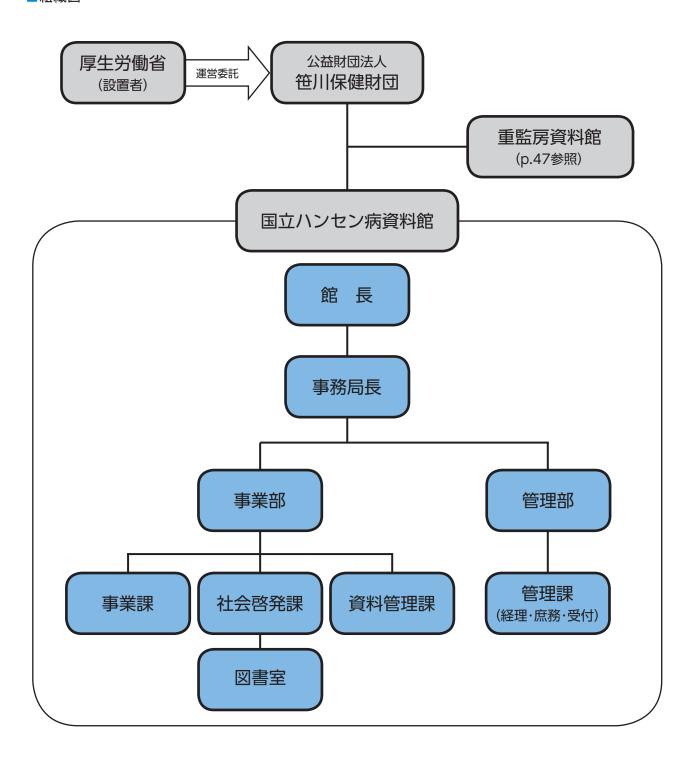
第16条 この規程に定めるもののほか、資料館の管理運営に関し必要な事項は、館長が定める。

#### 附則

この規程は、2016年2月25日から施行する。

# W 組織

## ■組織図



#### ■職員名簿 2022年3月31日現在

•館 長 内田 博文

• 事務局長 飯塚 賢治

・事業部 部 長 星野 奈央

事業課 学芸員 課長 西浦 直子

ッ 主任 木村 哲也

リカス 田代 学

社会啓発課 学芸員 課長 大髙俊一郎

リ 主任 金 貴粉

リ 牛嶋 渉

司 書 坂井 直枝

司書補佐 斉藤 聖

資料管理課 課 長 星野 奈央(兼)

学芸員 橋本 彩香

・療養所 学芸員 澤田 大介(松丘保養園 社会交流会館学芸員)

" 干川 直康 (栗生楽泉園 社会交流会館学芸員)

# 樋口 安奈 (栗生楽泉園 社会交流会館学芸員)

ル 杉山富貴子 (駿河療養所 駿河ふれあいセンター学芸員)

" 主任 田村 朋久(長島愛生園 歴史館学芸員)

" 木下 浩(長島愛生園 歴史館学芸員)

"太田由加利(邑久光明園 社会交流会館学芸員)

" 池永 禎子 (大島青松園 社会交流会館学芸員)

" 主任 原田 寿真(菊池恵楓園 歴史資料館学芸員)

" 主任 辻 央 (沖縄愛楽園 交流会館学芸員)

ル 鈴木 陽子 (沖縄愛楽園 交流会館学芸員)

・管理部 部 長 芳川 龍郎

管理課 課長 芳川 龍郎 (兼)

及川由紀子

千代倉裕子

赤石 和子

中島 久行

# Ⅴ 沿革

1990年	財団法人藤楓協会が創立40周年記念事業として資料館建設を計画し、有識者・各園園長・自 治会長らからなるハンセン病資料調査会が発足(7月)。
	資料館建築起工式(施工/建築:佐藤工業 展示:自主)(6月)。
	多磨全生園に高松宮記念ハンセン病資料館建設促進対策委員会設置 (7月)。
1992年	全国16園・関係機関から資料収集(10月~12月)。
	展示プラン作成(12月)。
1993年	高松宮記念ハンセン病資料館開館(運営委託先:財団法人藤楓協会)(6月)。
1994年	ハンセン病予防事業対策調査検討委員会の大谷藤郎座長が、「らい予防法」廃止と在園保障を 柱とする「大谷見解」を表明(4月)。
1996年	「らい予防法」廃止(4月)。
2000年	財団法人日本船舶振興会(現日本財団)の協力により、当館の図書室·収蔵庫等の拡張、全園 の資料保存を目的としたハンセン病資料保存検討委員会が発足(8月)。
2001年	ハンセン病違憲国家賠償請求訴訟で原告勝訴(熊本地裁)。控訴期限当日に控訴断念の旨を盛り込んだ「ハンセン病問題の早期かつ全面的解決に向けての内閣総理大臣談話」が発表され、熊本地裁判決確定。総理談話にハンセン病資料館の充実も盛り込まれる(5月)。 「ハンセン病療養所入所者等に対する補償金の支給等に関する法律」成立(6月)。
	国賠訴訟の原告と被告との基本合意(7月)に基づき設置されたハンセン病問題対策協議会で、ハンセン病資料館の予算・施設・人的態勢の充実を確認(12月)。
2002年	国による名誉回復措置の一環としてハンセン病資料館を拡充することを目的に、厚生労働省がハンセン病資料館施設整備等検討懇談会を設置 (5月)。
2003年	財団法人藤楓協会解散(3月)、資料館運営委託先が社会福祉法人ふれあい福祉協会に変更(4月)。
	開館10周年(6月)。
2004年	ハンセン病資料館施設整備等検討懇談会が「ハンセン病資料館の拡充にかかる基本計画書」を 提出(3月)。
2005年	新館建築・展示リニューアル工事のため一時休館(施工/建築:佐藤工業 展示:丹青社)(9月)。
2006年	新館落成、展示工事開始(10月)。
	展示プラン完成(2月)。
2007年	国立ハンセン病資料館としてリニューアルオープン (3月)。
	厚生労働省がハンセン病資料館等運営企画検討会を設置(11月)。
2008年	「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」(通称「ハンセン病問題基本法」、翌年4月施行)の制定によりハンセン病資料館存立の法的根拠が確立(6月)。
2009年	資料館運営委託先が財団法人日本科学技術振興財団に変更 (4月)。
2013年	開館20周年(6月)。
2014年	学芸部を新設し、同部に学芸課と社会啓発課を設置(8月)。
2016年	資料館運営委託先が公益財団法人日本財団に変更 (4月)。
2018年	学芸部を事業部に、学芸課を事業課に変更し、資料管理課を新設。管理部を新設し、総務課 を管理課に変更(4月)。
2020年	資料館運営委託先が公益財団法人笹川保健財団に変更(4月)。

# VI これまでの主な事業

1993年	高松宮記念ハンセン病資料館開館(6月)
	「多磨全生園・神山復生病院 昔むかし写真展」開催(4月~6月)
1994年	開館1周年記念シンポジウム「らい予防法改正問題をめぐって」開催(6月)
	「国吉信遺作展」開催(9月~10月)
1995年	「菊池恵楓園・琵琶崎待労病院 昔むかし写真展」開催(4月~6月)
	『ハンセン病資料館』刊行(5月)
	開館2周年記念フォーラム「ハンセン病の歴史を探る」開催(6月)
	開館3周年を記念し、「らい予防法廃止について」をテーマに評論を募集(4月)
1996年	「邑久光明園・大島青松園 昔むかし写真展」開催(5月~6月)
1990+	開館3周年記念シンポジウム「これからをどう生きるか」開催(6月)
	「趙昌源絵画展 韓国小鹿島の光と影」開催(10月~11月)
	「好善社慰廃園回顧展」開催(3月~4月)
1997年	「松丘保養園・長島愛生園 昔むかし写真展」開催(5月~6月)
	講演会「ハンセン病の偏見・差別を越えて」開催(11月)
	「栗生楽泉園・星塚敬愛園 思い出の写真展」開催(5月~6月)
1998年	「趙昌源絵画と入園者作品展」開催(9月)
1990+	開館 5 周年記念「趙根在(遺作)写真展 ハンセン病の光と影」開催(10月~11月)
	『高松宮記念ハンセン病資料館 開館5周年のあゆみ』刊行(12月)
	「写真展・沖縄2園の今昔」開催(5月~6月)。
1999年	開館6周年記念「趙昌源講演会 国立小鹿島病院の思い出と韓国のハンセン病事情」開催(6月)
	「陶芸展・全生焼&写真展・全生園の森展」開催(10月~ 11月)
	「芦村カズヨ絵画展」開催(1月)
2000年	「写真展「駿河療養所」&写生画「東村山30景展」」開催(2月~3月)
2000	「思い出の東北・奄美写真展」開催(5月~6月)
	開館7周年記念「長島愛生園展」開催(10月~11月)
	らい予防法廃止5周年記念学習会「『らい予防法』とはなにか? ―法律と市民社会―」開催(全
2001年	3回、3月~5月)
2001	開館8周年記念講演会、鶴見俊輔「ハンセン病との出逢いから」開催(7月)
	開館8周年記念「菊池恵楓園展」開催(10月~11月)
2002年	開館9周年記念映画会「千と千尋の神隠し」開催(7月)
2002	開館 9 周年記念「邑久光明園展」開催(10月~ 11月)
	開館10周年記念「松丘保養園展」開催(6月~7月)
2003年	開館10周年記念事業として、大谷藤郎講演会「近代の論理とハンセン病」と、ひとり芝居「をぐ
	り考」を開催(6月)
	開館10周年記念「多磨全生園展」開催(10月~12月)
2004年	『高松宮記念ハンセン病資料館10周年記念誌』刊行(10月)
2005年	開館12周年記念「各園むかし写真展」開催(6月~8月)
	常設展示リニューアル (3月)
2007年	国立ハンセン病資料館再開館式 (3月)
	リニューアルオープン記念「趙昌源絵画展 ―小鹿島の光と影―」開催(4月~5月)

000 = ==	2007年度秋季企画展「こころのつくろい ―隔離の中での創作活動―」開催(10月~12月)
2007年	講演・ハーモニカ演奏会、近藤宏一「青い鳥楽団と私」開催(秋季企画展付帯事業、11月)
	2008年度春季企画展「ハンセン病療養所の現在」開催(4月~6月)
2008年	連続講演会「療養所の歴史を語る」開催(春季企画展付帯事業、全4回、6月)
	2008年度秋季企画展「ちぎられた心を抱いて ―隔離の中で生きた子どもたち―」開催(9月
	~ 11月)
	『国立ハンセン病資料館 常設展示図録 2008』刊行(9月)
	『国立ハンセン病資料館年報 第1号 平成19 (2007) 年度』刊行 (10月)
	企画展「北高作陶展 ──仲間に支えられて─」開催(1月~3月)
	企画展「多磨全生園陶芸室のあゆみ」開催(1月~3月)
	「隔離の百年」のプレ企画として「公立療養所写真パネル展」開催 (4月~6月)
2009年	2009年度企画展「隔離の百年 ―公立癩療養所の誕生―」開催(7月~12月)
	シンポジウム「隔離の記憶を掘る ~全生病院「患者地区」を囲んだ「堀・土塁」~」開催(企画
	展付帯事業、9月)
	『国立ハンセン病資料館年報 第2号 平成20 (2008) 年度』刊行 (10月)
	国際ハンセン病政策シンポジウム (第1回)「ハンセン病医療政策と資料保存 ―日本とノル
	ウェー―」開催(金沢大学との共催、1月)
	企画展「桃生小富士展」(1月~2月)
	Everlyコンサート開催(企画展付帯事業、2月)
	『国立ハンセン病資料館 常設展示図録 2009』刊行(3月)
	『国立ハンセン病資料館ブックレット1 シンポジウムの記録 隔離の記憶を掘る〜全生病院
2010年	「患者地区」を囲んだ「堀・土塁」~』刊行(3月)
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第1号』刊行(3月)
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第1号』刊行(3月) 『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月)
	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月)
	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月) 『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月)
	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月) 『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月) 2010年度春季企画展「着物にみる療養所のくらし」開催(4月~7月)
	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月) 『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月) 2010年度春季企画展「着物にみる療養所のくらし」開催(4月~7月) 『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21(2009)年度』刊行(8月)
	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月) 『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月) 2010年度春季企画展「着物にみる療養所のくらし」開催(4月~7月) 『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21(2009)年度』刊行(8月) 2010年度秋季企画展「「全生病院」を歩く 一写された20世紀前半の療養所」開催(9月~12月) 企画展「高山勝介作陶展」開催(2月~3月) 『国立ハンセン病資料館研究紀要 第2号』刊行(3月)
	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月) 『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月) 2010年度春季企画展「着物にみる療養所のくらし」開催(4月~7月) 『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21(2009)年度』刊行(8月) 2010年度秋季企画展「「全生病院」を歩く 一写された20世紀前半の療養所」開催(9月~12月) 企画展「高山勝介作陶展」開催(2月~3月) 『国立ハンセン病資料館研究紀要 第2号』刊行(3月) 2011年度春季企画展「かすかな光をもとめて一療養所の中の盲人たち一開催(4月~7月)
	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月) 『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月) 2010年度春季企画展「着物にみる療養所のくらし」開催(4月~7月) 『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21(2009)年度』刊行(8月) 2010年度秋季企画展「「全生病院」を歩く 一写された20世紀前半の療養所」開催(9月~12月) 企画展「高山勝介作陶展」開催(2月~3月) 『国立ハンセン病資料館研究紀要 第2号』刊行(3月) 2011年度春季企画展「かすかな光をもとめて一療養所の中の盲人たち一開催(4月~7月) 企画展「いのちの詩 塔和子展」開催(「塔和子の会」との共催、5月~6月)。
2011年	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月) 『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月) 2010年度春季企画展「着物にみる療養所のくらし」開催(4月~7月) 『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21(2009)年度』刊行(8月) 2010年度秋季企画展「「全生病院」を歩く 一写された20世紀前半の療養所」開催(9月~12月) 企画展「高山勝介作陶展」開催(2月~3月) 『国立ハンセン病資料館研究紀要 第2号』刊行(3月) 2011年度春季企画展「かすかな光をもとめて一療養所の中の盲人たち一開催(4月~7月)
2011年	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月) 『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月) 2010年度春季企画展「着物にみる療養所のくらし」開催(4月~7月) 『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21(2009)年度』刊行(8月) 2010年度秋季企画展「「全生病院」を歩く 一写された20世紀前半の療養所」開催(9月~12月) 企画展「高山勝介作陶展」開催(2月~3月) 『国立ハンセン病資料館研究紀要 第2号』刊行(3月) 2011年度春季企画展「かすかな光をもとめて一療養所の中の盲人たち一開催(4月~7月) 企画展「いのちの詩 塔和子展」開催(「塔和子の会」との共催、5月~6月)。
2011年	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月) 『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月) 2010年度春季企画展「着物にみる療養所のくらし」開催(4月~7月) 『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21(2009)年度』刊行(8月) 2010年度秋季企画展「「全生病院」を歩く 一写された20世紀前半の療養所」開催(9月~12月) 企画展「高山勝介作陶展」開催(2月~3月) 『国立ハンセン病資料館研究紀要 第2号』刊行(3月) 2011年度春季企画展「かすかな光をもとめて一療養所の中の盲人たち一開催(4月~7月) 企画展「いのちの詩 塔和子展」開催(「塔和子の会」との共催、5月~6月)。 講演会、タケカワユキヒデ「多磨盲人会ハーモニカバンドの思い出」開催(春季企画展付帯事業、
2011年	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月) 『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月) 2010年度春季企画展「着物にみる療養所のくらし」開催(4月~7月) 『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21(2009)年度』刊行(8月) 2010年度秋季企画展「「全生病院」を歩く 一写された20世紀前半の療養所」開催(9月~12月) 企画展「高山勝介作陶展」開催(2月~3月) 『国立ハンセン病資料館研究紀要 第2号』刊行(3月) 2011年度春季企画展「かすかな光をもとめて一療養所の中の盲人たち一開催(4月~7月) 企画展「いのちの詩 塔和子展」開催(「塔和子の会」との共催、5月~6月)。 講演会、タケカワユキヒデ「多磨盲人会ハーモニカバンドの思い出」開催(春季企画展付帯事業、6月)
2011年	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月) 『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月) 2010年度春季企画展「着物にみる療養所のくらし」開催(4月~7月) 『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21(2009)年度』刊行(8月) 2010年度秋季企画展「「全生病院」を歩く 一写された20世紀前半の療養所」開催(9月~12月) 企画展「高山勝介作陶展」開催(2月~3月) 『国立ハンセン病資料館研究紀要 第2号』刊行(3月) 2011年度春季企画展「かすかな光をもとめて一療養所の中の盲人たち一開催(4月~7月) 企画展「いのちの詩 塔和子展」開催(「塔和子の会」との共催、5月~6月)。 講演会、タケカワユキヒデ「多磨盲人会ハーモニカバンドの思い出」開催(春季企画展付帯事業、6月) 企画展「伊藤秋夫写真展」開催(8月~9月)
2011年	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月) 『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月) 2010年度春季企画展「着物にみる療養所のくらし」開催(4月~7月) 『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21(2009)年度』刊行(8月) 2010年度秋季企画展「「全生病院」を歩く 一写された20世紀前半の療養所」開催(9月~12月) 企画展「高山勝介作陶展」開催(2月~3月) 『国立ハンセン病資料館研究紀要 第2号』刊行(3月) 2011年度春季企画展「かすかな光をもとめて一療養所の中の盲人たち一開催(4月~7月) 企画展「いのちの詩 塔和子展」開催(「塔和子の会」との共催、5月~6月)。 講演会、タケカワユキヒデ「多磨盲人会ハーモニカバンドの思い出」開催(春季企画展付帯事業、6月) 企画展「伊藤秋夫写真展」開催(8月~9月) 2011年度秋季企画展「たたかいつづけたから、今がある 一全療協60年のあゆみ一」開催(10
2011年	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月) 『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月) 2010年度春季企画展「着物にみる療養所のくらし」開催(4月~7月) 『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21(2009)年度』刊行(8月) 2010年度秋季企画展「「全生病院」を歩く 一写された20世紀前半の療養所」開催(9月~12月)企画展「高山勝介作陶展」開催(2月~3月) 『国立ハンセン病資料館研究紀要 第2号』刊行(3月) 2011年度春季企画展「かすかな光をもとめて一療養所の中の盲人たち一開催(4月~7月)企画展「いのちの詩 塔和子展」開催(「塔和子の会」との共催、5月~6月)。 講演会、タケカワユキヒデ「多磨盲人会ハーモニカバンドの思い出」開催(春季企画展付帯事業、6月) 企画展「伊藤秋夫写真展」開催(8月~9月) 2011年度秋季企画展「たたかいつづけたから、今がある 一全療協60年のあゆみ一」開催(10月~12月) 連続講演会「わたしの運動の記憶」開催(秋季企画展付帯事業、全4回、11月~12月) 『国立ハンセン病資料館研究紀要 第3号』刊行(3月)
	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月) 『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月) 2010年度春季企画展「着物にみる療養所のくらし」開催(4月~7月) 『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21(2009)年度』刊行(8月) 2010年度秋季企画展「「全生病院」を歩く 一写された20世紀前半の療養所」開催(9月~12月)企画展「高山勝介作陶展」開催(2月~3月) 『国立ハンセン病資料館研究紀要 第2号』刊行(3月) 2011年度春季企画展「かすかな光をもとめて一療養所の中の盲人たち一開催(4月~7月)企画展「いのちの詩 塔和子展」開催(「塔和子の会」との共催、5月~6月)。講演会、タケカワユキヒデ「多磨盲人会ハーモニカバンドの思い出」開催(春季企画展付帯事業、6月) 企画展「伊藤秋夫写真展」開催(8月~9月) 2011年度秋季企画展「たたかいつづけたから、今がある 一全療協60年のあゆみ一」開催(10月~12月) 連続講演会「わたしの運動の記憶」開催(秋季企画展付帯事業、全4回、11月~12月) 『国立ハンセン病資料館研究紀要 第3号』刊行(3月) 2012年度春季企画展「青年たちの「社会復帰」 一1950 - 1970一」開催(4月~7月)
2011年	『国立ハンセン病資料館ブックレット2ハンセン病関連法令等資料集』刊行(3月) 『ハンセン病図書館旧蔵書目録』刊行(3月) 2010年度春季企画展「着物にみる療養所のくらし」開催(4月~7月) 『国立ハンセン病資料館年報 第3号 平成21(2009)年度』刊行(8月) 2010年度秋季企画展「「全生病院」を歩く 一写された20世紀前半の療養所」開催(9月~12月)企画展「高山勝介作陶展」開催(2月~3月) 『国立ハンセン病資料館研究紀要 第2号』刊行(3月) 2011年度春季企画展「かすかな光をもとめて一療養所の中の盲人たち一開催(4月~7月)企画展「いのちの詩 塔和子展」開催(「塔和子の会」との共催、5月~6月)。 講演会、タケカワユキヒデ「多磨盲人会ハーモニカバンドの思い出」開催(春季企画展付帯事業、6月) 企画展「伊藤秋夫写真展」開催(8月~9月) 2011年度秋季企画展「たたかいつづけたから、今がある 一全療協60年のあゆみ一」開催(10月~12月) 連続講演会「わたしの運動の記憶」開催(秋季企画展付帯事業、全4回、11月~12月) 『国立ハンセン病資料館研究紀要 第3号』刊行(3月)

	*************************************
	特別企画展「北高作陶展」を奈良県天理市で開催(9月)
2012年	『国立ハンセン病資料館年報 第4号 平成22 (2010) 年度』刊行 (3月)
	2012年度秋季企画展「癩院記録 ―北條民雄が書いた絶対隔離下の療養所―」開催(10月~
	12月)
	講演会、清原工「北條民雄・人と作品」開催(秋季企画展付帯事業、11月)
	『国立ハンセン病資料館年報 第5号 平成23(2011)年度』刊行(11月)
	『国立ハンセン病資料館 常設展示図録 2012』刊行(1月)
	『国立ハンセン病資料館ブックレット3 看護の足もと "看護の行為と看護の原理"を問い
	なおす』刊行(2月)
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第4号』刊行(3月)
	2013年度春季企画展「一遍聖絵・極楽寺絵図にみるハンセン病患者 ~中世前期の患者への眼
	差しと処遇~」開催(5月~8月)
2013年	講演会、田中密敬「極楽寺境内絵図を紐解く」開催(春季企画展付帯事業、6月)
	開館20周年記念展開催(6月~7月)
	開館20周年記念式典開催(6月)
	『国立ハンセン病資料館 20周年記念誌』、『資料館だより』復刻版 ―20年のあゆみ― 第1
	号(1993年10月)- 第79号(2013年4月1日)』刊行(6月)
	開館20周年記念講演会、日野原重明「ハンセン病の患者に生涯を捧げた神谷美恵子医師の生き
	   方」開催(6月)
	講演会、遠山元浩「一遍聖絵の世界」開催(春季企画展付帯事業、7月)
	2013年度秋季企画展「想いでできた土地 多磨全生園の記憶・くらし・望みをめぐる」開催(10
	月~ 12月)
	多磨全生園現地ガイドツアー開催(秋季企画展付帯事業、全6回、10月~12月)
	開館20周年記念座談会「資料館の設立、活動、これからへの期待を語る」開催(11月)
	『国立ハンセン病資料館年報 第6号 平成24(2012)年度』刊行(12月)
	特別企画展「林志明作品展 ―中国ハンセン病回復者の書画活動―」開催(4月~5月)
2014年	講演会、林志明「私と書画活動」開催(特別企画展付帯事業、4月)
	2014年度春季企画展「不自由者棟の暮らし 一ハンセン病療養所の現在一」開催(4月~7月)
	講演会、山内和雄「沖縄愛楽園の不自由者棟」開催(春季企画展付帯事業、6月)
	東京都公文書館にて、同館との共催企画展「人権の歴史とアーカイブズ 一ハンセン病、隔絶
	の歴史を超えて―」開催(10月~ 12月)
	2014年度秋季・2015年度春季企画展「この人たちに光を 一写真家趙根在が伝えた入所者の姿
	—」開催(11月~ 2015年 5 月)
	講演会、大竹章「趙根在の写真を語る」開催(秋季・春季企画展付帯事業、11月)
	『国立ハンセン病資料館年報 第7号 平成25 (2013) 年度』刊行 (3月)
	絵本『すみれ』(文:北條民雄、絵:山﨑克己)刊行(3月)
	『国立ハンセン病資料館研究紀要 第5号』刊行(3月)
2015年	「北條民雄生誕100年絵本「すみれ」刊行記念原画展」開催(7月)
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催(8月)
	2015年度秋季企画展「私立ハンセン病療養所 待労院の歩み ―創立から閉院までの115年―」
	開催(10月~ 12月)
2016年	絵本『かわいいポール』(文:北條民雄、絵:おぼまこと)刊行(3月)

	『国立 N / 表 V 序次 N 統 重 新 頁 次 N 統
2016年	『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 平成26 (2014) 年度 年報』刊行(3月)
	2016年度春季企画展「「らい予防法」をふりかえる」開催(4月~7月)
	講演会、長田浩志「全患協と共に歩んだ「らい予防法廃止」への道のり」開催(春季企画展付帯
	事業、7月)
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催(8月)
	2016年度秋季企画展「生きるための熱 —スポーツにかける入所者たち—」開催(10月~ 12月)
	「あなたもゲートボールデビュー」開催(秋季企画展付帯事業、11月)
	野球談議「嗚呼、新良田教室野球部!! 」開催(秋季企画展付帯事業、12月)
	「多磨全生園内「全生学園跡地」における「堀」の現地見学会」開催(1月)
	「若松若太夫師匠の説経節の公演」開催(2月)
	『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 平成27 (2015) 年度 年報』刊行(2月)
	「多磨全生園内「土塁・堀の考古学調査」についての成果報告会」開催(3月)
	2017年度春季企画展「ハンセン病博物館へようこそ」開催(4月~7月)
2017年	「「ハンセン病博物館へようこそ」各館活動報告会」開催(春季企画展付帯事業 7月)
2017-	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催(7月・8月)
	夏休み自由研究応援企画「多磨全生園のフォトブックを作ろう」開催(8月)
	2017年度秋季企画展「隔離のなかの食 ―生きるために悦びのために―」開催(9月~12月)
	講演会「ハンセン病療養所の食の現在 ―国立療養所邑久光明園から―」開催(秋季企画展付
	带事業、11月)
	「ハンセン病体験講話 ~ハンセン病回復者の体験談を聞いてみませんか~」開催(11月~3月)
	『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 平成28 (2016) 年度 年報』刊行(2月)
	佐川修さんを偲ぶ上映会を開催 (4月)
	佐川修さん追悼展を開催(4月~5月)
	2018年度春季企画展「この場所を照らすメロディ ―ハンセン病療養所の音楽活動―」開催(4
	月~7月)
	古典・民謡コンサート開催(春季企画展付帯事業、7月)
	ギャラリートーク開催(春季企画展付帯事業、5月~7月)
	ギャラリー展「長渡虹邨展」開催(6月~7月)
	「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催 (7月)
	夏休み自由研究応援企画「多磨全生園のフォトブックを作ろう」開催 (7月)
2018年	夏休み自由研究応援企画「回復者へインタビュー! 記者になってみよう」開催(8月)
	「プロカメラマンと撮る全生園」開催 (9月)
	映画「あつい壁」上映会開催(11月)
	ギャラリー展「生誕100年島比呂志展 ―書くことは生きること―」開催(11月~12月)
	ギャラリートーク開催(島比呂志展付帯事業、11月)
	上映会&平沢保治さんトークイベント「親子でハンセン病を学ぼう」開催(11月)
	2018年度秋季企画イベント「もうひとつの橋 ~邑久長島大橋架橋30周年上映会&トークイベ
	ント~」開催(11月)
	講演会「生誕100年島比呂志の生涯と文学」開催(12月)
	講演会「ソーシャルワーカーを目指すあなた達に伝えたいこと」開催(12月)
	「ハンセン病体験講話 ~ハンセン病回復者の体験談を聞いてみませんか~」開催(4月~12月)
00107	ハンセン病資料館開館25周年記念宮崎駿監督が語る「佐川修さんとハンセン病資料館」開催(1
2019年	月)

「ハンセン病体験講話 〜ハンセン病回復者の体験談を聞いてみませんか〜」開催(2月〜12月) ビデオ上映会「ハンセン病資料館開館25周年記念宮崎駿監督が語る「佐川修さんとハンセン 病資料館」(2月〜3月)

映画「新・あつい壁」上映会開催(3月)

上映会&韓国舞踊公演「貴重映像でたどる「アリランの会」の軌跡」開催 (3月)

2019年度春季企画展「キャンバスに集う ~ 菊池恵楓園・金陽会絵画展」開催(4月~7月)

春季企画展オープニングセレモニー 弦楽四重奏・ヴァイオリンソロ演奏 (春季企画展付帯事業 4月)

ギャラリートーク開催(春季企画展付帯事業 4月~7月)

お絵かきワークショップ「キャンバスにあつまれ!」開催(春季企画展付帯事業 5月)

映画「あん」上映会開催(5月)

ギャラリー展「太田明写真展」開催 (5月~6月)

トーク企画「生きるための絵」開催(春季企画展付帯事業 6月)

講演会「金陽会の作家たち、その素顔」と木管三重奏のクラシックコンサート開催(春季企画展付帯事業 6月)

講演会「報道マンに訪れた"人間回復" ~ハンセン病回復者との出会いから~」開催(6月)

金陽会絵画館蔵品展開催(春季企画展付帯事業、7月)

「ハンセン病と人権」夏期セミナー開催 (7月)

夏休み自由研究応援企画「多磨全生園のフォトブックを作ろう」開催 (7月)

夏休みスペシャル!子どもむけ展示解説開催(8月)

ギャラリー展「追悼高山勝介作陶展」開催(8月)

2019年 夏休み自由研究応援企画「回復者へインタビュー!記者になってみよう」開催(8月)

映画「ふたたび」上映会開催(8月)

講演会「ハンセン病問題を学び、伝えるということ ~学校現場から~」開催(8月)

「第25回ICOM(国際博物館会議) 京都大会2019文化をつなぐミュージアム ―伝統を未来へー」出展(9月)

ギャラリー展「第25回ICOM (国際博物館会議) 京都大会2019文化をつなぐミュージアム 一伝 統を未来へ一」出展報告・展示紹介 (9月)

2019年度秋季企画展「『望郷の丘』 - 盲人会が遺した多磨全生園の歴史―」開催(9月~12月) ギャラリートーク開催(秋季企画展付帯事業、9月~12月)

フィールドワーク「『望郷の丘』に描かれた多磨全生園を巡る」開催(秋季企画展付帯事業10月~12月)

講演会「元職員が語る多磨盲人会 - 吉野志げ子さん・亀井義展さんをお招きして」開催(秋季 企画展付帯事業 10月)

ミュージアムトーク2019開催(10月~12月)

「やってみよう、鈴ボール!盲人会のレクリエーションを体験」開催(秋季企画展付帯事業11月)

ドキュメンタリー映画「風の子孫たち」上映会開催(11月)

ギャラリー展「没後60年・志樹逸馬展」開催(11月~12月)

講演会「志樹逸馬の詩と出会う」開催(ギャラリー展付帯事業 11月、12月)

記録映画「見えない壁を越えて」上映会開催(11月)

多磨全生園創立110周年記念事業「親子で学ぶ多磨全生園」開催(11月)

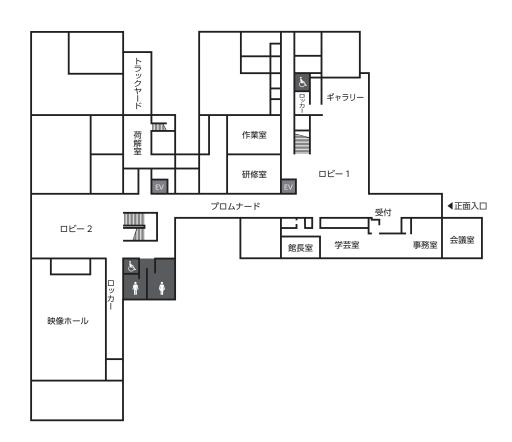
講演会「家族が語る もうひとつのハンセン病史」開催(12月)

クリスマスお絵かきイベント「みんなで描こうクリスマスツリー」開催(12月)

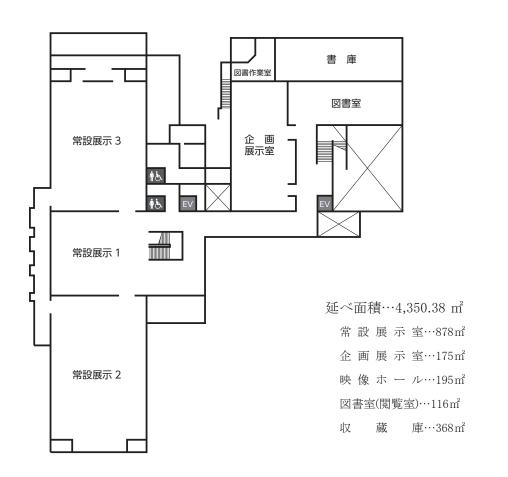
	正月イベント「やってみよう!お正月行事」開催(1月)
	「ハンセン病体験講話 〜ハンセン病回復者の体験談を聞いてみませんか〜」開催(1月〜2月)
	ミュージアムトーク2020早春開催 (1月~2月)
	職業シリーズ第4弾 講演会「ハンセン病問題と弁護士の使命 ~ハンセン病裁判を闘った弁
	護士たち~」開催(1月)
	証言映像上映会開催 (2月)
2020年	オンラインミュージアムトーク開催 (7月~2021年3月)
	企画展「石井正則写真展「13(サーティーン)~ハンセン病療養所の現在を撮る~」」開催(9
	月~ 12月)
	オンラインギャラリートーク開催(石井正則写真展付帯事業、10月~11月)
	ライブ配信「職業シリーズ」 第5弾 講演会「RADIOハンセン病問題を伝える~メディアの
	責任・ラジオの可能性~」開催(11月)
	ライブ配信「ハンセン病と人権」セミナー開催(12月)
	ギャラリー展「コロナ時代ハンセン病回復者からのメッセージ」開催(1月~2月)
	オンライン展示解説開催(ギャラリー展「コロナ時代ハンセン病回復者からのメッセージ」
	付帯事業、2月)
	企画展「『青い芽』の版画展-多磨全生園の中学生が彫った「日常」の風景-」開催(3~6月)
	オンライン朗読会開催(『青い芽』の版画展付帯事業 3月)
	オンラインギャラリートーク開催(『青い芽』の版画展付帯事業 3月)
	オンラインミュージアムトーク開催 (4月~2022年3月)
0001年	ギャラリー展 「私たちの上に、今日、青空が広がった「らい予防法」違憲国家賠償請求訴
2021年	訟判決20周年展」開催(6月)
	夏休み子ども向けオンラインワークショップ「国立ハンセン病資料館で学ぶ はじめての多
	磨全生園」(7月~8月)
	講演会ライブ配信「渋沢栄一の生涯とハンセン病―その事績と功罪をめぐって―」(8月)
	講演会ライブ配信 職業シリーズ第6弾「山川冬樹氏講演会 ―ハンセン病療養所から考える
	芸術の意味」(9月)
	ギャラリー展「帆船『豊丸』」開催(11月~ 2022年 2 月)
	ライブ配信「ハンセン病と人権」セミナー開催(12月)
	講演会ライブ配信 職業シリーズ第7弾「東村山市長の挑戦 ―ハンセン病問題の解決に向け
2022	た取り組みと想い―」開催(3月)
2022年	企画展「生活のデザイン ハンセン病療養所における自助具、義肢、補装具とその使い手たち」
	開催(3月~8月)

# Ⅲ 施設概要

1階



2階



# 第2章 2021年度事業

## I 教育啓発機能

## 1. 団体見学対応

従来は、事前予約をして来館する団体来館者に対し、当館映像ホールにおけるガイダンス映像の上映や、ハンセン病回復者による語り部活動を、1か月に複数回行っていた。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一環とし、団体来館者に対しては、展示前事前ガイダンスを行った。回復者等による語りについては対面での実施は休止とし、来館前の事前学習での啓発ビデオや語り部動画の視聴を勧めた。

来館が叶わない団体向けの対応として、学芸員が展示室を回りながらオンラインでハンセン病の歴史 やハンセン病問題の説明を行う展示解説を行った。

#### 団体来館者

【主な利用団体】看護学校、高校、大学、一般団体

【利用団体·利用者数】7団体、137名

#### オンライン展示解説

【主な利用団体】小学校、看護学校、中学校、高校、大学

【利用団体·利用者数】60団体 3,305名

## 2. 語り部活動・講義

#### 1) 館外講演会への講師派遣

学校、自治体、教育委員会等からの依頼に応じ、下記のとおり学芸員等を講師として派遣した。

【講師】 大髙俊一郎(当館学芸員、事業部社会啓発課課長)

金 貴粉(当館学芸員)

牛嶋 渉(当館学芸員)

儀同 政一(元当館事業部社会啓発課課長)

【実施団体数】86件(対面25件、オンライン50件、録画11件)

【聴 衆】8,611名 (ただし録画11件のうち2件はウェブ公開で視聴人数が不明であるため、人数には反映されていない)

#### 2) 体験講話

本年度も新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、回復者等による語りについては対面での実施は休止とした。しかし、入所者・退所者等の語りや証言において可能なものについてはアーカイブ化しYouTubeチャンネルで公開した。また来館前の事前学習での啓発ビデオや語り部動画の視聴を勧めた。

## 3. シンポジウム・講演会等の開催

1) オンラインミュージアムトーク2021 第4回「歴史の継承 ~長島愛生園歴史館の取り組み~」

ハンセン病療養所に設置された博物館で屈指の来館者数を誇る長島愛生園歴史館。同館の取組と 目的を紹介し、100年先のハンセン病問題の在り方について講演を行った。

【開催日】2021年4月24日 Zoom 配信ライブ

【講 師】田村朋久(長島愛生園 歴史館学芸員)

2) オンラインミュージアムトーク2021 第5回「機関誌『高原』のあゆみ」

2020年12月に通巻821号をもって終刊となった1946年に創刊された栗生楽泉園入所者自治会発行の機関誌『高原』。編集を担当した経験を持つ学芸員が、『高原』のあゆみや魅力、編集の舞台裏について語る講演を行った。

【開催日】2021年6月19日 Zoom 配信ライブ

【講師】干川直康(栗生楽泉園 社会交流会館学芸員)

3) オンラインミュージアムトーク2021 第6回「戦後ハンセン病療養所における短歌 —合同歌集『陸の中の島』を中心に」

戦後の文芸活動の画期となる合同歌集、全国国立療養所ハンゼン氏病患者協議会編『陸の中の島』 (1956年)の内容と本書が切り拓いたその後の短歌活動への影響や、ハンセン病問題解決への寄与、 成果について講演を行った。

【開催日】2021年7月17日 Zoom 配信ライブ

【講 師】木村哲也(当館学芸員)

4)「ハンセン病資料館で学ぶ はじめての多磨全生園」

夏休み子ども向けオンラインプログラム

ハンセン病資料館からオンラインで学芸員による、ハンセン病問題の歴史と現在について、展示 解説と質問コーナーを行った。

【開催日】2021年7月22日、24日、8月14日、15日、25日 Zoom 配信ライブ

5) 講演会「渋沢栄一の生涯とハンセン病 ―その事績と功罪をめぐって―」

社会福祉を専門とし、その観点からハンセン病問題の研究にも取り組み『渋沢栄一に学ぶ福祉の未来』(青月社)の著者である杉山博昭氏(ノートルダム清心女子大学教授)を講師に招き、渋沢が生涯のなかでどのようにハンセン病と関わったのかをたどりながら、渋沢とハンセン病問題との関係を講演いただいた。

【開催日】2021年8月21日 YouTubeライブ配信

【講師】杉山博昭氏(ノートルダム清心女子大学教授)

6) オンラインミュージアムトーク2021 第7回「「教えられる」場から「考える」場へ —国立療養所 菊池恵楓園に設置される歴史資料館の目指すべきもの—」

菊池恵楓歴史資料館のこれまでの事業の紹介と、2022年5月のリニューアル後の事業予定の解説、 ハンセン病療養所における博物館施設の役割について考察する講演を行った。

【開催日】2021年9月25日 Zoom 配信ライブ

【講師】原田寿真(菊池恵楓園社会交流会館(歴史資料館)学芸員)

7) オンラインミュージアムトーク2021 第8回「神山復生病院の歩み」

創立132年を迎えた、日本のハンセン病療養所の中で最も古く国立の施設とは異なる形態で歩んできた神山復生病院の歩みと、その変化を病院敷地内や墓地、復生記念館の様子を交えて講演を行った。

【開催日】2021年10月23日 Zoom 配信ライブ

【講師】森下裕子(復生記念館学芸員)

8) オンラインミュージアムトーク2021 第9回「国立ハンセン病資料館収蔵庫ツアー・資料管理の現場から」

当館の重要な役割のひとつである、ハンセン病問題に関する資料の収集保存について、収蔵庫から膨大な資料の一部を紹介すると共に、資料管理の実践と工夫について講演を行った。

【開催日】2021年11月27日 Zoom 配信ライブ

【講師】橋本彩香(当館学芸員)

9) オンラインミュージアムトーク2021 第10回「隔離のなかの食」

隔離政策下の療養所で、食材の生産や配食は患者作業によって行われていたが、一方で、食は生命維持と回復の手立てとしてだけでなく、数少ない切実な悦びであった。その食をめぐるしくみの変遷や、食を通して垣間見える患者・回復者の思いについて講演を行った。

【開催日】2021年12月18日 Zoom 配信ライブ

【講師】西浦直子(当館学芸員)

10) オンラインミュージアムトーク2022 第1回「美粧院を立ち上げた愛楽園の婦人会」

隔離政策下の戦後の沖縄愛楽園自治の中で、女性たちが婦人会を結成し、どのように美粧院を立ち上げ経営したのかについて講演を行った。

【開催日】2022年2月19日 Zoom 配信ライブ

【講 師】鈴木陽子(沖縄愛楽園交流会館学芸員)

11) オンラインミュージアムトーク2022 第2回「図書室からの招待状 ~頁をめくり、想いを辿る~」 多磨全生園入所者自治会が運営していたハンセン病図書館から続く当館図書室の成り立ちや収蔵 資料の一部の紹介と、図書室ツアーとサービス内容について紹介を行った。

【開催日】2022年3月26日 Zoom 配信ライブ

【講 師】斉藤聖(当資料館図書室職員)

## 12) 職業シリーズ第6弾「山川冬樹氏講演会 —ハンセン病療養所から考える芸術の意味」

大島青松園でのフィールドワークを継続的に展開し、これまで2つのインスタレーション作品を 発表している芸術家の山川冬樹氏を講師に招き、それらの作品を制作しようとした思いやハンセン 病問題との出会い等を講演いただいた。

【開催日】2021年9月11日 Zoom 配信ライブ

【講師】山川冬樹氏(芸術家/ホーメイ歌手)

## 13) 職業シリーズ第7弾「東村山市長の挑戦 —ハンセン病問題の解決に向けた取り組みと想い—」

これまで多磨全生園の将来構想に尽力し、市内小中学校におけるハンセン病問題の学習を推進するなど、多磨全生園が所在する東村山市の市長として積極的にハンセン病問題に取り組んできた渡部尚氏を講師に招き、ご自身の経歴に絡め、ハンセン病問題との出会い、それに対する東村山市の取り組みなどを講演いただいた。

【開催日】2022年3月12日 Zoom 配信ライブ

【講師】渡部尚氏(東村山市長、全国ハンセン病療養所所在市町連絡協議会会長)

## 14) ハンセン病と人権セミナー

当館YouTubeチャンネルにてオンライン配信形式で、国際法学者・人権教育の専門家と家族訴訟において副団長を務めるお二方を講師に招き、教育の場でハンセン病問題を通して伝えたい人権課題について講演いただいた。

【開催日】2021年12月11日

【講 師】坂元茂樹氏((公財)人権教育啓発推進センター理事長) 黄光男氏(ハンセン病家族訴訟原告団副団長)

## 4. 資料の貸出

#### 1) 写真パネルの貸出

ハンセン病問題の啓発に資する展示を自ら企画したいという方々を対象に、写真パネルセットの貸出を行った。「全園写真パネル」(全国の療養所の写真パネル46点のセット)、「多磨全生園写真パネル(戦前編)」(多磨全生園の写真パネル19点とタイトル1点のセット)、「たたかいつづけたから、今がある一全療協60年のあゆみ一」(2011年度秋季企画展の展示内容が含まれたパネル一式)の3セットがあり、先方の希望に応じて貸し出した。

【件数】17件

#### 2) 所蔵資料の貸出

当館で所蔵する資料の貸出を希望する団体、個人に対して資料の貸出を行う。

【件数】〇件

## 3) 啓発用ビデオ、語り部ビデオの貸出

希望する団体に対して当館で作成した下記映像資料(いずれもDVD)の貸出を行った。

【啓発用ビデオDVD】『ハンセン病を知っていますか?』(一般向け、一般向け英語版)、『未来への虹―ぼくのおじさんはハンセン病―』(小学生向け)

【語り部ビデオDVD】『平沢保治さん講演』(小学生中学年編、小学生高学年編、中学生編、教員編、看護学生編、公務員編)、『佐川修さん講演』(中学生編、一般・医療・看護学生編)

【件数】16件 【配布本数】30本

## 4) 啓発資料等作成への協力

ハンセン病問題に関する啓発資料等の作成にあたり、当館所蔵資料の複製・掲載等を希望する個人、団体に対して、撮影・複製許可等の協力を行った。

【件数】39件

## 5. 学校教育との連携

#### 1) 教材ビデオの配布

小学校を中心とした教育機関におけるハンセン病問題の普及啓発を目的に教材ビデオ『平沢保治さん講演 小学生中学年編』、『平沢保治さん講演 小学生高学年編』、『平沢保治さん講演 中学生編』、『平沢保治さん講演 教員編』(いずれもDVD)について、希望する学校・教育関係機関に配布した。

【件数】16件 【配布本数26本】

## 2) その他学習支援

ハンセン病問題啓発ビデオ、語り部講演ビデオやパネル等の貸し出し、語り部講演ビデオの配布、 来館の小中学校で希望がある場合には、見学前ガイダンス説明や質問の受付、見学後の振り返り等 を行った。

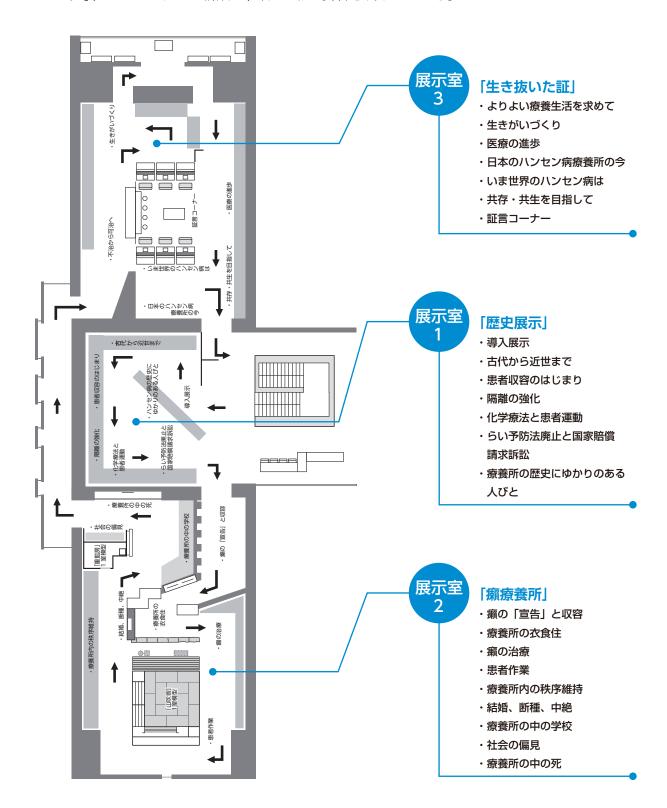
また、対面による出張講座に加えて、オンラインによる展示説明も実施した。小学校を中心とした教育機関に対するハンセン病問題の普及啓発は本年度も継続して行い、学習支援の一環として学習指導案の収集を行い、当館ホームページ上に、ハンセン病問題授業実践アーカイブとして公開した。

# Ⅱ 展示機能

## 1. 常設展示

## 1) 常設展示

プロムナード展示・導入展示、展示室1「歴史展示」、展示室2「癩療養所」、展示室3「生き抜いた証」、4つのエリアで構成し、約950点の資料を展示している。



#### ■展示室1「歴史展示」

【趣旨・内容】日本における古代から現代までのハンセン病の歴史を、近代以降の隔離政策を中心に概 観する。常設展示の中心である展示室2「癩療養所」、展示室3「生き抜いた証」を見 るための前提として、歴史的経緯の把握を目的とした展示と位置づけている。

【主な資料】文書、写真、地図、実物資料、模型、解説映像

## ■展示室2「癩療養所」

【趣旨・内容】化学療法開発以前の時代を中心に、療養所における苦難に満ちた生活、隔離政策のもとでの人権侵害、偏見・差別の実例を示す。療養所および所内での生活を成り立たせてきた各要素でコーナーを構成し、雑居部屋と「重監房」の1室原寸大模型も展示している。

【主な資料】生活用具・作業道具・治療器具等の実物資料、男子独身軽症者寮「山吹舎」の1室(模型)、「重監房」の1室(模型)、写真、解説映像

## ■展示室3「生き抜いた証」

【趣旨・内容】苦しい状況にあったからこそ自らの生きる意味を探り見いだしてきた、患者・回復者の力強い姿と、ハンセン病をとりまく諸状況を示す。具体的には、患者運動、創作活動、共に生きる手がかりとなる知識などを展示している。また、国内42人、海外22人の回復者・関係者の証言映像を視聴できるビデオブース(証言コーナー)を設けている。なお展示室2から展示室3に至る回廊には絵画作品を、展示室3の北側展望ギャラリーには陶芸作品を展示している。

【主な資料】写真、文書、文学作品、絵画、陶芸、書、手芸、スポーツ・演芸の道具、治療薬、補助 具・補装具、海外のハンセン病に関する文書類、解説映像、証言映像

## ■プロムナード展示・導入展示

設立準備(1990年)から開館20周年(2013年)までの当館の足跡、館の目的・理念・機能、基本情報(面積、運営費等)を展示している。

## 2) 常設展示の更新

- ・展示室2 63点の修正ならびに同じく展示室2の32点のテキスト修正を行った。
- ・常設展示見直し検討会ならびに同ワーキンググループ構成員による現展示についての意見を伺った と同時に、今後の進め方についての協議を開始した。

#### 3)展示解説の実施

- ・新型コロナウィルス感染防止対策の一環で、個人来館者向けのサービスである学芸員による常設展 示解説は休止した。
- ・学芸員による解説なしでも展示の理解を深めることができるよう、展示室1・2・3の解説シート (日・英)を受付にて配布した。また、展示室2・3については、解説シートに基づいた解説ビデオ(日・英字幕)を視聴が可能とした。

## 2. 企画展示・特別展示

- 1) ハンセン病資料館の自主企画による企画展示
- 企画展

## 「生活のデザイン ハンセン病療養所における自助具、義肢、補装具とその使い手たち」

知覚神経、運動神経の麻痺をかかえながら患者作業や日常生活における仕事を担ってきた入所者 の苦難の歴史や、その後の生活を自助具、義肢、補装具や写真等で展示した。

【会 期】2022年3月12日~2022年8月31日

【会 場】企画展示室

## •特別展

## 「『青い芽』の版画展 ―多磨全生園の中学生が彫った「日常」の風景」

東村山中学校全生分教室で児童が制作した版画の原画を展示した。

【会 期】2021年3月2日~2021年6月10日

(うち4月26日から5月31日までは臨時休館)

## ギャラリー展

## 「私たちの上に、今日、青空が広がった「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟判決20周年展」

国賠訴訟の提訴から国の控訴断念までを中心に、契機、論点、裁判の経過や判決の概要、その後の状況等について、写真、文書等を展示した。

【会 期】2021年6月10日~6月30日

## ギャラリー展

#### 帆船「豊丸」展

元患者家族への補償と名誉回復をうたった改正ハンセン病問題基本法の成立した11月より、かつて国立療養所長島愛生園に収容された子どもへの思いを形にすべく、父によって製作された帆船の模型を展示した。

【会 期】2021年11月6日~2022年2月6日

## 2) 施設貸出による展示

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、本年度は施設の貸出は行わなかったため、施設貸出による展示の開催はなかった。

# Ⅲ 収集・保存機能

## 1. 資料の収集

ハンセン病療養所入所者より作品28点、自助具1点、支援者より入所者聞き取り音声記録カセットテープ6本、支援者よりハンセン病問題に関する文書、実物資料計21点、支援者よりハンセン病問題に関する書籍、文書、実物資料計388点を受贈した。また、ハンセン病療養所入所者と、作品を含めた資料寄贈につき協議を進めている他、入所者遺族より作品の寄贈の申し出を受けたが、新型コロナウイルスの感染拡大状況が落ち着いた後に、詳細を協議することとした。

入所者・退所者計 2名の証言動画を 5 本制作。当事者による証言を広く視聴してもらうため、当館 YouTubeチャンネルに掲出することとした。またこれまでに各園で行ってきた聞き取り時に撮影された動画 1 本を編集し、常設展示室 1 で公開した。

「らい予防法」廃止25年、国賠訴訟判決20年という節目にあたった本年度は「らい予防法」の廃止、 そして国賠訴訟に関わってきた入所者、退所者、関係者6人の証言ビデオを6本制作し、当館YouTubeチャンネルにて公開した。

## 2. 収蔵資料の保存・管理

## 1) 分類・整理

収蔵資料については、実物資料(約5,500点)、文書(約6,700点)、作品(約4,200点)、写真(約100,000点)に大別し、資料整理を進めた。また、現存データベースに不具合が生じたため、新データベースへ移行した。

- 【実物資料】収蔵庫内約5,500点のうち4,368点をデータベースへ登録を行い、同時に収蔵庫内の資料の整理、外部倉庫の整理、資料移動等を行った。また多磨全生園入所者及び義肢装具士等に、資料に関する聞き取りを行った。
- 【文 書】約6,700点のうち約5,050件のデータベース登録を行った。外部倉庫より館内に移動し、燻蒸後に整理を開始した。準備が整ったものからデジタル化を開始し、デジタル化が終了したものは、権利確認やマスキング等を行った上で、オンライン上での公開を今後めざす。
- 【作 品】収蔵庫内約4,200点のうち、約765点のデータベース登録を行うとともに、収蔵庫内の陶芸作品を中心に計測等整理を進め、絵画作品75点のデジタル化を行った。
- **【写 真】約100,000点のうち、56,270点のデータベース登録を行った。デジタル化も並行して行った。**

#### 2) 保存・管理

- ・絵具落剝や黴による被害が出ていた絵画8点を修復した。
- ・保存環境の把握と改善のために、館内各所の定期点検・清掃・温湿度計測、サーキュレーターや除湿器等の配置、空調の調整などによる維持管理、虫菌害の発生の確認と対応を行った。
- ・資料の燻蒸、雨水桝等の清掃などを行った。

## 3)館内環境の保全

- ・館内の保存管理環境を向上するため、文化財活用センターに協力を求め、アドバイスに基づき対策 を講じると共に、学芸員が総合的有害生物管理の研修を受けた。
- ・当資料館、重監房資料館ならびに社会交流会館の学芸員を対象とした虫菌害の勉強会を開催した。

## 4) その他

・収蔵庫増築に関する諸機関との調整を行った。

# Ⅳ 調査研究機能

## 1. 収蔵資料に関する調査

収蔵資料についてハンセン病回復者、関係者からのヒアリングを行うなど、資料情報の詳細な把握に 努め、常設展示・企画展示や資料カードの作成等に反映した。

## 2. 企画展・催事開催のための調査研究

- ・2021年度ギャラリー展「私たちの上に、今日、青空が広がった「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟判決20周年展」に関する調査研究を行った。
- ・2021年度ギャラリー展「らい予防法」廃止から25年、国賠訴訟判決から20年、その意味と意義を語 る連続講座に関する調査研究を行った。
- ・2021年度企画展「生活のデザイン」の開催にともない入所者や関係者等の聞き取りを含む調査研究 を行った。

## 3. ハンセン病問題・博物館に関する調査研究

## 1) 中・長期にわたる継続的資料調査・研究活動

- ・語り部機能継承に関する勉強会は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、休止している。なお、語り部機能継承につき、証言の活用手法につき、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館と意見交換を行った。
- ・2015年から2019年にかけて行った各ハンセン病療養所入所者等の聞き取り調査延べ179本について、 文字起こしがされていなかった17本の文字起こしを行った。
- ・第9号国立ハンセン病資料館研究紀要の発行に向けて、各学芸員が必要な調査研究を行った。
- ・ミュージアムトークに向けた調査研究を行った。

## 2) 学会、シンポジウム、講演会等への参加

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、中止とした。

## 3) 博物館活動全般に関連する調査研究

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、中止とした。

## 4)調査研究の公開

- ・第9号国立ハンセン病資料館研究紀要を発行した(2022年3月31日)。
- ・掲載論文他は以下の通り。

タイトル	執筆者
戦後ハンセン病療養所の短歌活動―合同歌集『陸の中の島』を中心に―	木村 哲也
植民地朝鮮のハンセン病政策における朝鮮癩予防協会の誕生とその役割	金 貴紛
汝の妻も世の女なるべし―米軍統治下愛楽園に結成された婦人会―	鈴木 陽子
卒業文集『青い芽』における中学生の表現をめぐる一考察―「転換期」 の多磨全生園における隔離の相対化への試み―	西浦 直子
国立療養所多磨全生園で製作された義肢装具、自助具	橋本 彩香
ギャラリー展「コロナ時代 ハンセン病回復者からのメッセージ」	吉國 元

・学芸員の調査研究の成果を発信する場として、「ミュージアムトーク」を開催した。

日程	タイトル	報告者
2021年4月24日	歴史の継承~長島愛生園歴史館の取り組み~	田村 朋久
2021年6月19日	機関誌『高原』のあゆみ	干川 直康
2021年7月17日	戦後ハンセン病療養所における短歌―合同歌集『陸の 中の島』を中心に	木村 哲也
2021年9月25日	「教えられる」場から「考える」場へ―国立療養所菊 池恵楓園に設置される歴史資料館の目指すべきもの―	原田 寿真
2021年10月23日	神山復生病院の歩み	森下 裕子
2021年11月27日	国立ハンセン病資料館収蔵庫ツアー・資料管理の現場 から	橋本 彩香
2021年12月18日	隔離のなかの食	西浦 直子
2022年2月19日	美粧院を立ち上げた愛楽園の婦人会	鈴木 陽子
2022年3月26日	図書室からの招待状―~頁をめくり、想いを辿る~	斉藤 聖

## V 情報センター機能

## 1. 国立ハンセン病資料館公式ホームページの運用

当館公式ホームページは、本年度全面リニューアルを行った。利用者がよりスムーズに情報を得ることができるよう、「ワンクリックで行きたいページに行ける」をコンセプトに、トップページにアクセス数の多いページへのアイコンを並べる設計とした。また、東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、多言語対応(日本語、英語、フランス語、スペイン語、中国語、ロシア語、アラビア語)を施した。これにより、海外への情報発信の拡充へとつながった。加えて、スマートフォン版ホームページも充実させ、各ホームページコンテンツをスマートフォン向けに最適化を行った。ホームページリニューアル後においては、引き続き定期的に保守点検・データ更新を行った。

また、企画展、ギャラリー展、講演等各種イベントの開催案内ならびに開催報告の掲載を行った。さらに、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、臨時休館ならびに事前予約制・定員制による限定開館が続いたため、オンラインコンテンツを拡充させた。具体的には、企画展のギャラリートーク、ミュージアムトーク、講演イベント等の開催動画を当資料館公式You Tubeに公開し、時間・場所にとらわれずご覧いただける環境を整え、広報活動を積極的に実施した。

その他、データ管理の保全を目的とした遠隔地バックアップ業務、ホームページの視聴者調査を引き 続き実施し、情報発信力強化に向けて取り組みを行った。

当資料館ホームページ https://www.nhdm.jp/

## 2. 情報提供・検索システム関連業務

本年度は、ハンセン病問題授業実践(指導案)アーカイブに関するデータの追加を行った。

#### 3. 図書室の管理・運営

- 毎月納品の新聞雑誌記事データを新聞雑誌記事検索システム上にて更新した。
- ・『キリスト新聞』2019年のハンセン病関連記事の納品データを新聞雑誌記事検索システムに追加・ 更新した。
- ・『中外日報』1988年~2005年分のハンセン病関連記事の納品データを新聞雑誌記事検索システムに追加した。
- ・2020年発行の各ハンセン病療養所機関誌のデータ化ならびに原本の合冊製本・コピー製本を行った。
- ・図書管理システム「FACIL」の機能追加や不具合修正を行った。
- ・収蔵庫及び書庫の未整理資料の内容と所蔵の有無を確認し、リストを作成した。
- ・新型コロナウイルス感染症に対する差別偏見に関する情報を収集した。
- ・各ハンセン病療養所発行の年報のデジタル化及び公開に向けて、各ハンセン病療養所と調整し、1 園を除いて了承いただいた。現在公開に向けて準備を進めている。
- ・ハンセン病関連書籍を57点新規購入した。
- ・ハンセン病関連書籍を1153点受贈した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、閲覧室の椅子を一時的に撤去し、長期滞在とならぬよう、資料閲覧を停止した。また図書カウンターにアクリル板を設置し、密になることを避けるため、原則としてレファレンス業務は休止し、貸出し・返却のみを原則として開室した。

## 4. 印刷物の発行・配布

#### ■2021年度月別図書室利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
開 室 日 数	21	0	26	27	26	25	27
レファレンス件数	0	0	0	0	0	3	0
利 用 者 数	33	0	3	46	58	54	77
資料複写件数	0	0	6	4	8	6	5
新 規 登 録 者 数	3	0	6	4	8	6	5
通常貸出冊数	127	0	39	30	42	73	94
リモート外部貸出冊数	29	0	32	6	48	19	19

						11月	12月	1月	2月	3月	合計
開	7.1	室	日		数	23	23	24	23	27	272
レ	ファ	・レ	ンプ	ス件	数	2	0	1	0	3	9
利	J	刊	者		数	112	83	81	75	89	711
資	料	複	写	件	数	9	9	5	6	1	59
新	規	登	録	者	数	9	9	5	6	1	62
通	常	貸	出	冊	数	81	61	64	106	45	762
リニ	E-	ト外	部貸	出冊	計数	24	21	9	17	22	246

下記の印刷物を発行し、来館者および関係機関等に配布した。

#### 1)『資料館だより』(季刊)

- ・資料館だより第111号 (A4判 16,000部、両面カラー、2021年4月1日発行)
- ・資料館だより第112号 (A4判 16,000部、両面カラー、2021年7月1日発行)
- ・資料館だより第113号 (A4判 18,000部、両面カラー、2021年10月1日発行)
- ・資料館だより第114号(A4判 18,000部、両面カラー、2022年1月1日発行)

#### 2)来館者用配布資料等

・ハンセン病資料館日本語版リーフレットの増刷(A3変形 10,000部、両面カラー、2021年10月発行)

#### 3)展示図録

・企画展「生活のデザイン」発行(B5タテ、48ページ、フルカラー、2,000部、2022年3月12日発行)

#### 4) 研究紀要

・『国立ハンセン病資料館 研究紀要 第9号』を発行した。 (A4タテ、本文160ページ、表紙2色・本文1色、900部、2022年3月31日発行)

#### 5) 年報

・『国立ハンセン病資料館 重監房資料館 2020年度 年報』を発行した。 (A4タテ、70ページ、当館ホームページにて公開、2021年12月1日発行)

## VI 管理・サービス機能

## 1. 施設管理・運営

#### 1) 施設整備

資料館施設等の機能と環境を良好に維持しサービス提供が常に円滑に行われるよう施設等の日常 点検ならびに保守および法定点検、環境測定等の保守管理業務を行った。また、館内の日常清掃、 窓ガラス清掃・床ワックス等特別清掃の他、害虫防除業務、屋上防水工事等を実施し適切に施設管 理を行った。

### 2) 設備更新

設備の経年劣化に対処するため適宜更新作業を実施した。令和3年度は、増築棟の建物が施工され12年が経過したことに伴い、打音調査などの外壁診断を実施した。またコロナ禍の館内空気環境対策として、除菌空気清浄機を図書室、会議室、事務室、作業室、ボランティア控室、授乳室に設置した。また、老朽化による作動不良が発生した館内各トイレのウォシュレットと洗面台湯沸かし器の交換工事や、省エネルギー対策の一環として館内照明器具のLED化を進めた。

#### 3)情報機器定期保守

システム関係機器に関しては、保守点検を定期的に実施し円滑な運用を図った。また、経年劣化、 保守期間終了等更新が必要な機器類については適宜リプレイスを実施した。

また新規採用学芸員に対しパソコン等の機器の手配を行った他、来館者へのサービス向上の一環としてお客様向けWi-Fi機器の設置を行った。

#### 4) 事業費管理

当館の事業費管理を行った。2021年度運営費は445,151,601円。

### 2. アンケートの実施

来館者の意見を収集し今後の活動に資するため、企画展、ミュージアムトーク、ハンセン病と人権セミナーなどでアンケートを実施した。

### 3. 施設貸出

新型コロナウイルス感染拡大の状況を鑑み、中止とした。

## 4. その他

本年度は、新型コロナウイルス感染防止対策の一環で、4月1日から4月24日まで事前予約制(午前  $10:00\sim11:30$ 、午後 $13:30\sim15:00$ )ならびに定員制(午前、午後それぞれ10人)による開館とした。また、4月25日より緊急事態宣言が発出されたことに伴い、5月30日までの期間、臨時休館とした。6月1日からの再開館にあたっては、開館マニュアルを作成し感染症対策に万全を期し、事前予約制・定員制による開館としながら、クラスターの発生を避けるため細心の注意を払って運営を行った。10月1日に緊急事態宣言が解除された際は、引き続き事前予約制・定員制による開館を行ったが、入場回数を増やし(① $9:30\sim11:00$  104、② $10:00\sim11:30$  104、③ $10:30\sim15:00$  104、④ $14:00\sim15:30$  104 対応した。また、11月13日からは、団体客については100の公司を設けたが、個人客については通常開館へ戻す対応とした。100の公司をについては、オンライン展示見学へ積極的に誘導し、オンラインプログラムの積極活用を推進した。100の2022年1月22日からは、まん延防止等重点措置が適用されたことに伴い、事前予約制・定員制による開館としたが、まん延防止等重点措置が解除された3月23日から一部を除き通常開館へ戻す運用とした。

こうした状況下、当館の円滑な運営を図るとともに利用者の満足度が高められるよう来館者の側に 立ったサービスを心がけ適切に施設運営を行った。

## Ⅶ 企画調整機能

## 1. 広報活動

#### 1) 資料館だよりの発行

「V 情報センター機能 4. 印刷物の発行・配布」を参照。

#### 2) ホームページの管理・運営

「V 情報センター機能 1. 国立ハンセン病資料館公式ホームページの運用」を参照。

#### 3) その他の広報

事業の紹介、各種イベントの案内等周知を図るため印刷物の発行および各種報道機関へのプレスリリースの配信、広報依頼ならびに近隣交通機関とその一部駅舎にへの看板の設置を行い、さらに Facebook、Twitter、YouTube等SNSを積極的に活用し、利用者への周知を図った。

#### ■報道

新聞・雑誌等113件において当館ならびにイベント等の紹介に関する報道がなされた。

#### ■広報 (広告、その他)

- ・西武池袋線所沢駅・清瀬駅、西武新宿線久米川駅・高田馬場駅に額面看板を掲出した。(継続)
- ・西武池袋線練馬駅に額面看板を掲出した。(新規)
- ・JR武蔵野線新秋津駅に額面看板を掲出した。(継続)
- ・西武バス清瀬駅の時刻表部分に当館広報用看板を掲出した。(継続)
- ・西武池袋線車両50両、ならびに西武新宿線車両90両に、車内窓上ポスターを掲出した。
- ・企画展、ギャラリー展等イベントの開催案内周知を目的に、プレスリリースを添付し、報道関係者 にメールの一斉送信を行った。
- ・オンライン企画(ミュージアムトーク、ギャラリートーク、講演会等)の動画を当館公式YouTube に掲載した。
- ・お知らせメールの配信を継続して行った。

### 2. 博物館施設、関係諸機関との連携

他の博物館施設や専門図書館との交流促進のため、以下の組織に加盟した。

- · 日本博物館協会
- 東京都博物館協議会
- 三多摩公立博物館協議会
- 医学図書館協会
- · 日本患者図書館協会

## Ⅷ 2021年度利用状況

#### 1) 開館日数

2021年度(2021年4月1日~2022年3月31日)の開館日数は、272日であった。

### 2)入館者数

2021年度の各月入館者数、および各月の開館日に対する1日あたり平均入館者数は以下の通りであった。

	入館者数(人)	開館日 (日)	1日平均(人)
4月	288	21	13. 71
5月	0	0	0
6月	267	26	10. 27
7月	307	27	11. 37
8月	444	26	17. 07
9月	274	25	10.96
10月	341	27	12.63
11月	580	23	25. 22
12月	604	23	26. 26
1月	317	24	13. 21
2月	200	23	8. 70
3月	680	27	25. 19
合 計	4, 302	272	15. 82

<sup>※1</sup>日平均入館者数は小数点3位で四捨五入

<sup>※</sup>入館者数4,302名のうち、個人:4,165名、団体:137名 (7団体)

<sup>※2021</sup>年4月25日~2021年5月31日までは新型コロナウイルス感染拡大防止対策の ため臨時休館

<sup>※2021</sup>年4月1日~24日、6月1日~11月12日は、事前予約制・定員制による会館

# 第2部 重監房資料館

## 第1章 重監房資料館の概要

## I 目的・理念・機能

## 【目的】

特別病室(重監房)の収監に関しては、その運用や手続きなど未だに不明な点が多くある。重監房資料館は、こうした特別病室(重監房)とハンセン病問題に関する資料の収集・保存と調査・研究の成果を発表することにより、人の命の大切さを学び、広くハンセン病問題への理解を促すことで、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す。

## 【理念】

重監房資料館は、特別病室(重監房)を負の遺産として後世に伝え、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す普及啓発の拠点として、人権尊重の精神を育む。

## 【求められる資料館像】

- ① 特別病室(重監房)及びハンセン病・ハンセン病問題に関する調査研究を行うとともに情報や知識を普及啓発する拠点施設。
- ② 特別病室(重監房)での過酷な歴史や悲惨な出来事を、想像力をはたらかせながら体感することができ、その苛酷さ・悲惨さが伝わる施設。
- ③ 年間を通じて開館し、将来にわたって活動を継続できる施設。
- ④ 特別病室(重監房)及びハンセン病・ハンセン病問題に関する資料を収集・展示・保存できる施設。
- ⑤ 誰もが見学できる施設。
- ⑥ 地域の方々がかかわり、世代を超えて支えられる施設。

#### 【機能】

#### ■歴史継承機能

資料の散逸を防ぎ、歴史とともに後世に伝えるため、特別病室(重監房)及びハンセン病・ハンセン病問題に関する調査研究を行うとともに、資料を収集・保存する。

#### ■普及啓発機能

調査研究の成果を一般に提供し、人権学習の支援を行う。

#### ■再現・展示機能

#### [重監房原寸部分再現]

原寸部分再現により、特別病室(重監房)の過酷さや悲惨さを感じられるようにする。

#### [展示]

特別病室(重監房)の全体像を示す縮小模型や証言映像、調査研究の成果などを公開する。

#### ■情報発信機能

特別病室(重監房)及びハンセン病・ハンセン病問題に関する情報の受発信と集積を行い、特別病室(重監房)や重監房資料館について広く知らせる。

#### ■管理機能

円滑な施設運営を行うとともに、来館者の利便を図る。

## Ⅱ 運営委員会

### 1)目的

重監房資料館の運営方針、事業計画、学術事項等に関する議論、検討を行い、円滑な実施を図るために協議を行う。委員の委嘱は、資料館長が行う。

### 2) 2021年度委員会について

2021年度運営委員会は、新型コロナウィルス感染防止のために開催の見込みが立たず、委嘱手続き及び委員会の開催ができなかった。

## Ⅲ 重監房資料館管理運営規程

(目的)

第1条 この規程は、重監房資料館(以下「資料館」という。)の管理運営を円滑に行うために必要な 事項を定める。

#### (事業)

- 第2条 資料館は、ハンセン病問題の解決の促進に関する法律(平成20年法律第82号)第18条に基づき 国が実施する普及啓発活動の一環として、特別病室(重監房)を負の遺産として後世に伝え、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す普及啓発の拠点として、人権尊重の精神を育むため、次に掲げる事業を行う。
  - (1) 歴史継承事業

特別病室(重監房)とハンセン病問題に関する資料の収集・保存や調査研究活動を通じて貴重な資料の散逸を防止することで後世に伝承すべき歴史資産を適切に管理するとともに、知見の蓄積に基づく研究成果を発表することで資料館の存在意義を広く認知させる活動を行う。

(2) 普及啓発事業

資料の収集・保存や調査研究活動等によって得られた成果を、普及・啓発を通じて一般に示し、 ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す。

(3) 再現・展示事業

資料の収集・保存や調査研究活動等によって得られた成果のうち公開可能な物を展示することにより、特別病室(重監房)とハンセン病問題に関する理解促進とハンセン病をめぐる差別と偏見の解消に寄与する。

(4) 情報発信事業

資料館の事業を広く一般に周知するとともに、活動内容を公開することでハンセン病をめぐる差別と偏見の解消に寄与する。

(5) 管理機能事業

資料館を円滑に運営し、利用者の利便性に配慮した活動を実施する。

#### (年間事業計画)

- 第3条 重監房資料館長(以下「館長」という。)は、毎年、翌年度の年間事業計画を作成し、厚生労働省に提出するものとする。
- 2 年間事業計画には、当該年度の事業計画の大綱、重点施策、テーマに基づく調査研究、企画展・特別展、資料の収集及び保存、普及啓発活動の具体案等を明記する。なお、軽微な場合を除き、年間事業計画を変更しようとするときは、厚生労働省に変更計画を提出するものとする。

#### (休館日及び開館時間)

- 第4条 資料館の休館日及び開館時間は、次のとおりとする。ただし、厚生労働省と協議して、休館日 又は開館時間を変更することができる。
  - (1) 休館日

毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、国民の祝日の翌日・年末年始・館内整理日

(2) 開館時間

フルオープン期間  $(4/26 \sim 11/14)$ : 午前 9 時30分から午後 4 時まで(入館は午後 3 時30分まで) 冬期予約期間  $(11/15 \sim 4/25)$ : 午前10時00分から午後 3 時30分まで(入館は午後 3 時まで)

(3) 臨時休館日

その他不測の事態及び資料館の維持管理上必要やむを得ない場合があるときは、臨時に休館日とすることができる。

#### (入館料)

第5条 資料館の入館料は無料とする。

#### (入館の制限)

- 第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を拒み、又は退館を命ずることができる。
  - (1) 資料、建物若しくはその附属設備をき損し、他人に危害を及ぼし、又は他人の迷惑になる物品若しくは動物の類(盲導犬・聴導犬等を除く。)を携帯する者
  - (2) 公の秩序又は公共の風俗を乱すおそれのある者
  - (3) その他職員の指示に従わない者および資料館の管理運営上支障があると認められる者

#### (入館者への指導)

- 第7条 職員は、入館者に対して次に掲げる事項を守るよう指導しなければならない。入館者がこの指導に従わないときは、退館させることができる。
  - (1) 資料等をき損又は汚損するおそれのある行為をしないこと。
  - (2) 備え付けの備品を勝手に移動させないこと。
  - (3) 所定の場所以外で飲食又は喫煙をしないこと。
  - (4) 大声を発すること、暴力を用いることその他の他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
  - (5) 物品(文書及び図面等を含む。)の販売又は提供をしないこと。
  - (6) 勧誘、寄付募集その他これに類する行為をしないこと。
  - (7) 座込みその他通行の妨害になるような行為をしないこと。
  - (8) 立入りを禁止した場所に立ち入らないこと。
  - (9) 前各号に掲げるもののほか、資料館の運営の妨げになる行為をしないこと。

#### (損害賠償)

第8条 館長は、資料館の資料又は建物若しくはその附属設備等をき損、汚損又は滅失した者が判明したときは、その者に対し相当と認める損害の賠償を求めなければならない。

#### (資料等の亡失・損傷)

第9条 館長は、資料・備品に亡失・損傷その他の事故があったときには、その品名、数量、原因その 他必要な事項を速やかに厚生労働省に報告する。

#### (入館者の損害事故等)

- 第10条 職員は、入館者が館内において傷害を負った場合は、直ちに応急措置を施すとともに、傷害の 状況、負傷者の住所、氏名、連絡先等を事務局長に報告する。
- 2 事務局長は、当面の対策を指示するとともに、事後の措置に万全を期さなければならない。
- 3 前2項の規程は、入館者が病気等のために休憩場所の提供の申し出があった場合について準用する。

## (土地、建物および設備等の管理)

- 第11条 土地、建物及び設備等の管理責任者は、館長とする。
- 2 館長は、土地、建物及び設備等が滅失、損傷した場合は、速やかに厚生労働省に報告し、指示を受ける。

#### (施設の使用)

第12条 館の管理する土地、建物、設備等の施設は、館長が業務運営上必要であると認めるときは、第 三者に使用させることができる。

#### (使用者の責任)

第13条 第8条の規程は、施設の使用者が資料館の施設、設備、資料等に損害を与えた場合について準用する。

#### (資料の寄贈及び寄託)

- 第14条 第2条各号に掲げる事業に係る資料(以下「資料」という。)の寄贈を受け入れたときは、寄贈資料受入整理簿に必要な事項を記載し、寄贈者に資料受領書を速やかに交付する。
- 2 資料の寄託は、あらかじめ寄託者と期間を取り決めた上で「寄託資料受入整理簿」に必要事項を記載し、寄託者に資料受領書を速やかに交付する。また、寄託者が期間前に資料の返還を受けようとするときは、寄託物返還申込書を提出する。

#### (資料の管理)

第15条 展示資料・収蔵資料等については、常に温湿度等の管理に注意し、異常が生じた場合は、速やかに対応するものとする。

#### (館長への委任)

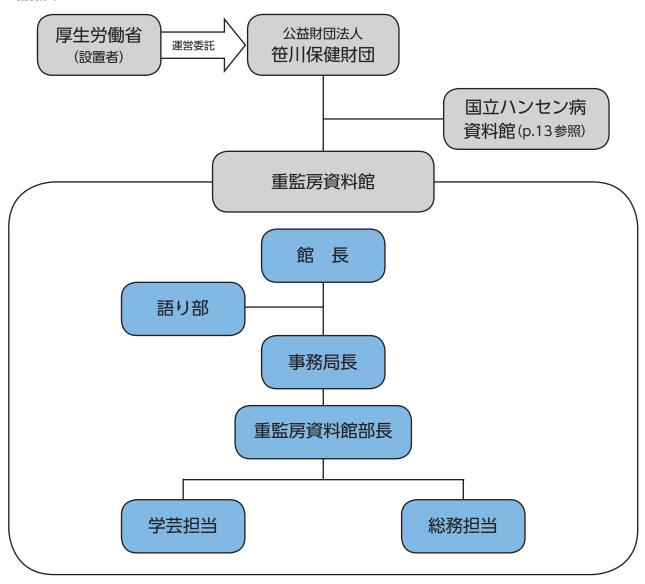
第16条 この規程の定めるもののほか、資料館の管理運営に関し必要な事項は、館長が定める。

#### 附則

- この規程は、2014年4月30日から施行する。
- この規程は、2016年7月1日から施行する。
- この規程は、2019年12月13日から施行する。

## IV 組織

#### ■組織図



- ・学芸担当は、歴史継承機能業務、普及啓発機能業務の一部、再現・展示機能業務、情報発信機能業 務の一部を担当。
- ・総務担当は、普及啓発機能業務の一部、情報発信機能業務の一部、管理機能業務を担当。

#### ■職員名簿 2022年3月31日現在

・館長 内田 博文 (国立ハンセン病資料館長兼務)

・事務局長 飯塚 賢治(国立ハンセン病資料館事務局長兼務)

·重監房資料館部長 黒尾 和久 (学芸員)

• 学芸担当 学芸員 鎌田 麻希

学芸員 松浦 志保

・総務担当 主 任 香川 進司

庶 務 黒岩富美子

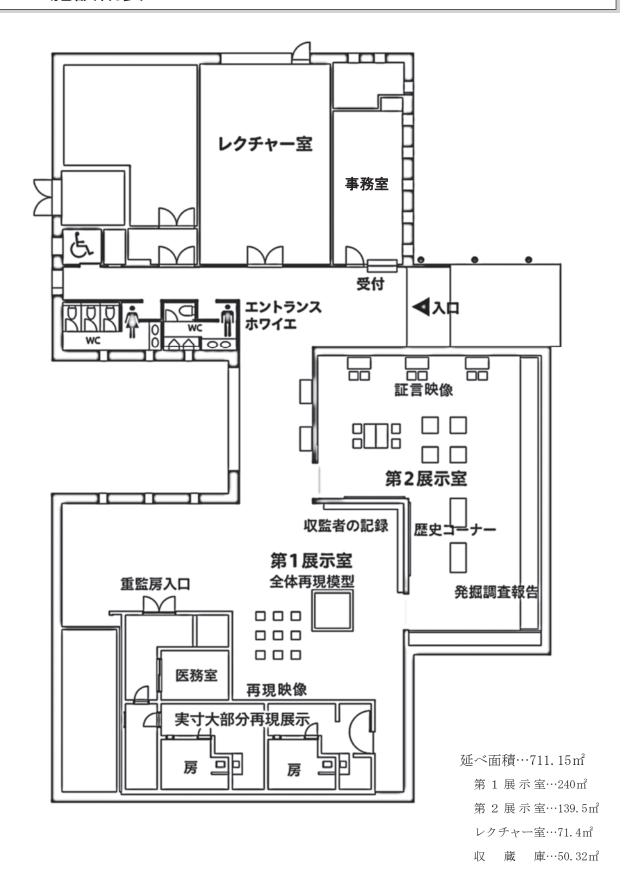
# Ⅴ 沿革

2004年	栗生楽泉園·重監房の復元を求める会が、特別病室(通称重監房、以下「重監房」と表記)跡地 の保存と復元を求める107,101人分の署名を国(厚生労働省)に提出(6月)。
	2007年度ハンセン病問題対策協議会において、歴史的建物・資料の保存・復元等については、重監房を優先課題として取り上げることになる(3月)。
	第169回通常国会において「ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」が可決・成立、公布さ
2008年	れる。この法律によって国立のハンセン病資料館の設置や歴史的建造物の保存に法的根拠が
·	与えられた(6月18日公布、翌年4月1日施行)。
	2008年度ハンセン病問題対策協議会において重監房復元、重監房跡地の保存については、国
	の責任で行うことになる (12月)。
2011年	2010年度ハンセン病問題対策協議会において国(厚生労働省)は重監房再現・展示施設の建
2011—	築に必要な予算獲得に努めることになる (3月)。
	重監房再現・展示施設の実施設計経費を盛り込んだ政府の2012年度予算が成立(4月)。
2012年	ハンセン病資料館等運営企画検討会・歴史的建造物等保存作業部会の重監房再現ワーキンググ
	ループが、「重監房再現に関する基本計画書」をとりまとめる(5月)。
	重監房資料館の施設整備費及び展示制作費を盛り込んだ、政府の2013年度予算が成立(4月)。
	厚生労働省が「重監房資料館整備工事」の入札公告を公表(5月)。神宮工業が落札。
	「重監房資料館整備工事」着工(6月)。
	厚生労働省が「重監房資料館展示制作」の入札公告を公示(7月)。丹青社が落札。
	国立ハンセン病資料館の協力のもと、厚生労働省が重監房跡地の発掘調査を実施(8月~9
2013年	月)。出土遺物は、東京都埋蔵文化財センターに保存処理を依頼。
	2013年度ハンセン病問題対策協議会において重監房資料館と跡地の維持・管理、人的体制の整
	備は国の責任で行うことを確認(10月)。
	国立ハンセン病資料館内に重監房資料館開設準備室を設置。学芸員と事務員各1名が配置さ
	れる(12月)。
	展示、ホームページ、パンフレット、チラシ等の企画・作成を行う(12月~翌年4月)。
	厚生労働省が重監房資料館の管理運営を盛り込んだ「ハンセン病対策事業(資料館運営等委託
	分)」の企画競争を公表(1月28日公示)。
	厚生労働省の主催により、前橋市の群馬県民会館でシンポジウム「重監房とは何だったのか」
	ハンセン病隔離政策の"負の遺産"を考える」を開催(3月)。
	公益財団法人日本科学技術振興財団が重監房資料館の管理運営事業受託者となる。開設準備
2014年	室を草津町の建設地内仮事務所に移動。学芸員及び事務員が草津に着任(4月)。
, i	「重監房資料館整備工事」竣工(4月)。
	厚生労働省から管理運営事業受託者に重監房資料館の建物が貸与され、展示資料の搬入を行
	重監房資料館開館記念式典を挙行。グランドオープン。ホームページを公開(4月)。
	重監房跡地に見学者用の手すりとウッドデッキを整備する工事を行う(10月~翌年3月)。
	厚生労働省により、重監房の遺構基礎構造の調査が行われる(11月~翌年3月)。
	東京で開催された「グローバル・アピール2015」を記念したイベント、「現在・過去・未来…当事
	者の想い」(パネルディスカッション、子どもたちの空手演武、コンサート)を開催(1月)。
2015年	重監房跡地の見学デッキの一般公開を開始(4月)。
	来館者1万人達成セレモニー開催(6月)。
	重監房跡地の展望台の一般公開を開始(7月)。
	「語り部の日」実施(7月~11月)。

	Fig. 11. 2. The state of the st
2015年	企画展「沢田五郎特別展」開催(10月~11月)。
	重監房資料館の管理運営事業受託者が公益財団法人日本財団に変更となる(4月)。
	群馬県ハンセン病パネル展に学芸員を派遣(6月)。
	第89回日本ハンセン病総会・学術大会(草津)開催事務局として支援(6月)。
	休館日を週2日から、週1日に変更(7月)。
2016年	戦後米軍の撮影した空中写真中に重監房を発見 (7月)。
	「語り部の日」実施(7月~ 11月)。
	企画展「人間谺雄二」開催(10月~11月)。
	ドキュメンタリー映像「熊笹の尾根の生涯 -人間谺雄二・ハンセン病とともに生きる-」制作
	(10月~11月)。
	重監房新画像発見(5月)。
	群馬県ハンセン病パネル展に学芸員を派遣 (6月)。
	栗生楽泉園監禁室鍵発見 (7月)。
0017/5	企画展「それは百年前に始まった」開催(7月~8月)。
2017年	門衛跡地発掘調査 (10月~11月)。
	門衛跡地発掘調査、報道関係者内覧会(11月)。
	「昭和20年代の栗生楽泉園全景パノラマ写真」(重監房を含む) 大型写真パネルの制作、関係
	者内覧会(2月)。
	「昭和20年代の栗生楽泉園全景パノラマ写真」(重監房を含む)展示公開(4月)。
	群馬県ハンセン病パネル展に学芸員を派遣(6月)。
	企画展「隔離のなかの隔離 -ハンセン病療養所監禁室の内部―」開催(7月~8月)。
	門衛柱屋外展示除幕式開催(7月)。
	来館者3万人達成セレモニー開催(7月)。
2018年	ハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティア・ガイドの案内で巡るウォーキングツアー
	実施(8月)。
	シャトルタクシー(草津温泉バスターミナル駅~栗生楽泉園~重監房資料館を無料送迎)実
	施 (8月)。
	調査報告書「門衛所跡の発掘調査」発行(3月)。
	群馬県ハンセン病パネル展に学芸員を派遣 (6月)。
	企画展「旧日本統治下海外ハンセン病療養所監禁室展」開催 (7月~8月)。
	ハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティア・ガイドの案内で巡るウォーキングツアー
	実施 (7月~8月)。
2019年	シャトルタクシー(草津温泉バスターミナル駅〜栗生楽泉園〜重監房資料館を無料送迎)実
	施 (7月~8月)。
	ハンセン病人権啓発映像「遺族ふたり -ハンセン病差別と向き合う-」制作(9月)。
	ハンセン病人権啓発映像「遺族ふたり -ハンセン病差別と向き合う-」上映会開催(1月~
	2月)。
	重監房資料館の管理運営事業受託者が公益財団法人笹川保健財団に変更となる(4月)
	企画展「重監房跡を掘る☆撮る〜黒﨑彰写真展〜」開催(7月〜12月。1月〜3月開催延長)。
0000/5	ハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティア・ガイドの案内で巡るウォーキングツアー
	実施 (7月~8月)。
2020年	シャトルタクシー(草津温泉バスターミナル駅~栗生楽泉園~重監房資料館を無料送迎)実
	施 (7月~8月)。
	全館燻蒸を実施 (9月)。
	レクチャー室に「谺文庫」設置(3月)。
2021年	企画展「重監房を報道した男 関喜平展」開催(7月~9月。9月~12月開催延長)。

	ハンセン病ゆかりの史跡や施設等をボランティア・ガイドの案内で巡るウォーキングツアー 実施 (7月~9月)。
2021年	企画展「重監房を報道した男 関喜平展」トークイベント開催 (9月)。
	ハンセン病人権啓発映像「続・遺族ふたり (仙太郎大叔父編)」(仮称)撮影原版制作(11月)。
	瀬木悦夫(関喜平)実話小説『特別病室』を復刻(3月)。

## VI 施設概要



## 第2章 2021年度事業

## I 歴史継承機能

新型コロナウィルス感染防止のため、外出、出張等の外部での活動は可能な限り回避するようにした ため、各種調査・研究活動は極力自粛したが、その中で以下の通り、特に資料の保管関係において、新 たな活動を行った。

## 1. 資料の収集・保存

#### 1) 書籍·古典籍等

・関喜平氏遺族から実話小説『特別病室』の直筆原稿、『われとわが身』掲載同人誌、蔵書類の寄贈があった。

#### 2) ハンセン病政策及びハンセン病療養所に関する遺物等

・国立療養所栗生楽泉園入所者等から寄贈された資料を収集・保存した。

#### 3) その他

- ・収蔵庫の棚、テンバコ、中性紙封筒等の備品、消耗品を活用した整理を行った。(通年)
- ・収蔵庫内の整理、資料撮影環境の整備等、学芸作業環境の充実、改善を行った。(通年)
- ・谺雄二氏(元ハンセン病違憲国賠訴訟全国原告団協議会会長、元栗生楽泉園入所者自治会副会長) の寄贈資料の整理、リスト化作業を行った。また、寄贈図書について図書コーナー「谺文庫」の図 書及び図書データの整理を行った。(2020年より継続中)
- ・収蔵庫及び展示室において、温湿度の計測を行い、記録、分析を行った。また館内の虫害状況の検証、併せて清掃を中心とする駆虫対処も行った。(通年)

## 2. 屋外展示 (跡地) 環境の保全

#### 1) 跡地見学環境整備

・雑草の駆除、枯葉の除去を実施した。

#### 2) 跡地見学者用デッキ及び見学スペース一般公開

・一般公開を継続した。(2021年4月26日~11月14日)

#### 3)展望台一般公開

・一般公開を継続した。(2021年4月26日~11月14日)

## 3. 調査・研究

#### 1) 特別病室(重監房)に関する調査・研究

・前年度に引き続き、特別病室(重監房)遺構基礎構造調査及び収監者に関するライフヒストリー調査を行った。(継続中)

#### 2) ハンセン病政策・ハンセン病療養所史

なし

#### 3) 患者及び回復者(入所者・退所者)等の生活

なし

#### 4) 歴史的建造物・史跡・記念物の保存対策

・歴史的建造物(多磨全生園内旧少年少女舎等の保全・活用)に係る調査視察を行った。(2022年3月3日)

#### 5) 企画展のための調査・研究

- ・2021年度企画展「重監房を報道した男 関喜平展」において、実話小説『特別病室』を執筆した瀬木悦夫(関喜平)氏に関する資料収集・情報収集を行った。
- ・2022年度企画展準備、調査を行った。

#### 6)調査・研究成果の発表

- ・日本考古学協会第87回総会に、黒尾和久部長が参加。(於:専修大学、2021年5月22日~23日)
- ・第94回日本ハンセン病学会総会・学術大会において、黒尾和久部長が「米国ハワイ州モロカイ島カラウパパ居留地内日系人墓地の基礎調査(第1報)」と題した発表を行った。(於:長島愛生園Web参加、2021年5月27日~28日)

#### 7) 執筆活動

- ・『医歯薬学系博物館辞典』(雄山閣発行)において、「重監房資料館」と題して、黒尾和久部長が執筆した。
- ・『ハンセン病問題から学び、伝える 差別のない社会をつくる人権学習』(清水書院発行)において、「社会教育が果たす役割『重監房資料館』」と題して、黒尾和久部長が執筆した。
- ・『上毛新聞オピニオン21『視点』(12月17日)』(上毛新聞論説室オピニオン21事務局発行)において、「重監房の実態 差別の歴史から学ぼう」と題して、黒尾和久部長が執筆した。
- ・『ふれあい福祉だより(第21号2021)』(社会福祉法人ふれあい福祉協会発行)において、「重監房資料館の設立とその活動 ~『特別病室とは何か』~」と題して、黒尾和久部長が執筆した。
- ・『上毛新聞オピニオン21『視点』(2月10日)」』(上毛新聞論説室オピニオン21事務局発行)において、「重監房跡の発掘調査 人権侵害の実態克明に」と題して、黒尾和久部長が執筆した。

## 8) 論文・報告書

なし

## 4. その他

・草津周辺におけるハンセン病関連の施設、古地図等の資料調査を行った。(2016年より継続中)

## Ⅱ 普及啓発機能

前年度に続いて、新型コロナウィルス感染防止や、各機関側の訪問受付、会合開催自粛により、自治体、学校、観光施設、交通機関、各種団体に対する訪問、広報活動、発表、講演は極力自粛したが、Webを活用した講演、映像制作、映像貸出、イベント開催等、コロナ禍においても可能な限りの活動の継続、発展に努めた。

## 1. 語り部活動

語り部活動が栗生楽泉園社会交流会館へ移管されたこと及び語り部の健康上の理由から、「語り部の日」の実施は見送られた。

## 2. 人権学習の支援

### 1) 行政機関等に対する協力

- ・「『らい予防法による被害者の名誉回復及び追悼の日』祈念・講演と映画のつどい」において、黒尾和久部長が「栗生楽泉園内の重監房と菊池医療刑務支所」と題した講演を行った。(主催:香川県ハンセン病問題を考える市民の会、於:香川県高松市男女共同参画センター(Web講演)、2021年6月20日)
- ・「ハンセン病問題から『今』を考える座談会」において、黒尾和久部長が「重監房資料館の設立と その意義~人間・谺雄二~」と題した講演を行った。(主催:映画「あん」の向こう側実行委員会、 於:東京都東村山市(Web講演)、2021年6月20日)
- ・「吾妻地区人権教育指導者研修会」において、黒尾和久部長が「ハンセン病問題を正しく理解する ~元患者やその家族への偏見や差別を解消するために~」と題した講演を行った。(主催:群馬県 教育委員会吾妻教育事務所、於:中之条合同庁舎(Web講演)、2021年8月24日)
- ・「ハンセン病に関する講演会」において、黒尾和久部長が「重監房資料館の役割」と題した講演を行った。(主催:山梨県笛吹市教育委員会、於:春日居あぐり情報ステーション、2021年11月6日)
- ・「ハンセン病問題に関する『親と子のシンポジウム』」において、黒尾和久部長がパネルディスカッション「『特別病室』の記憶を掘りおこす~重監房資料館の設立とその活動~」の講師、コメンテーターを担当した。(主催:公益財団法人人権教育啓発推進センター、於:群馬コンベンションセンター、2021年11月13日)
- ・「令和3年度社会人権教育指導者養成講座」において、黒尾和久部長が「ハンセン病元患者の人たちの人権」と題した講演を行った。(主催:群馬県館林市教育委員会生涯学習課、於:群馬県館林市役所、2021年11月18日)
- ・「2021高松市男女共同参画市民フェスティバル」において、黒尾和久部長が「重監房資料館見学と生きる・生かされるを考える~命に優劣はない!学び・語りを将来へ繋げる~」と題した講演を行った。(主催:ハンセン病問題を考える市民の会、於:香川県高松市男女共同参画センター、2021年11月20日)
- ・「令和3年度青少年赤十字岩手県指導者協議会盛岡地区協議会講演会」において、黒尾和久部長が「ハンセン病をめぐる差別と偏見~家族・遺族の被害が認められた意味とは~」と題した講演を行った。 (主催:青少年赤十字岩手県指導者協議会、於:日本赤十字社岩手県支部、2021年12月3日)

- ・「人権問題専門講座」において、黒尾和久部長が「人を優しく見るには一ハンセン病問題から考える一」 と題した講演を行った。(主催:大阪府岸和田市市民環境部人権・男女共同参画課、於:大阪府岸 和田市立福祉総合センター(Web講演)、2022年2月3日)
- ・「ハンセン病フォーラム」において、黒尾和久部長がシンポジウム「ハンセン病資料館・重監房資料館に関わって」のパネラーを担当した。(主催:徳島県立人権啓発推進センター、於:ときわプラザブライダルコアときわホール(Web講演)、2022年2月10日)

## 3. 普及啓発のための映像制作活動

・遺族証言映像 続「遺族ふたり 一仙太郎大叔父編一」(仮称)制作

重監房資料館の開館 5 周年(2019年 4 月30日)を記念して、ハンセン病元患者の 2 人の縁者の協力を元に、当館が制作したドキュメンタリー映像「遺族ふたり」(2019年10月14日公開) は好評を得、ハンセン病問題の理解を広め、普及啓発の充実につなげるという、当初の目的を果たすことができた。また、ハンセン病家族訴訟の熊本地裁判決の確定をうけて、厚生労働省難病対策課が示した国立のハンセン病資料館における普及啓発の取組方針にも示されたように、名誉回復の対象が元患者・回復者のみならず、その家族・遺族に拡がったことに対しても時宜を得た取り組みになった。重監房資料館では、「遺族ふたり」の制作経験を整理して、続編である遺族証言映像 「続・遺族ふたり (仙太郎大叔父編)」(仮称)の制作を企画し、無癩県運動について焦点化を意識し、2020年度にロケーションハンティングを兼ねたシナリオハンティングを終え、2021年に、証言映像制作のラッシュ(撮影原版)を作成、完成させた。

#### 撮影・調査場所:

5月14日~15日 獨協医科大学

8月12日 高崎

10月8日~13日 長島愛生園、愛媛県北宇和郡域・高知県高岡郡域

10月26日~27日 獨協医科大学

11月23日~27日 長島愛生園、京都府京都市

完成・納品:11月30日 制作:岩波映像株式会社

制作予定:2022年度映像公開(上映会あるいはDVD、BD作成等)

## 4. イベントの開催

・ハンセン病者の歴史と密接な関わりを持つ草津町内に点在するハンセン病ゆかりの史跡や施設等を ボランティアガイドの案内で徒歩で巡るウォーキング・ツアーを開催した。

実 施 日:2021年7月24日、7月31日、8月7日、9月25日(※8月14日、9月18日:雨天中止)

コース:草津温泉バスターミナル→光泉寺→湯畑→旧湯之澤区(大滝の湯、中和工場)→頌徳 公園→リーかあさま記念館→八十八ヵ所→湯之澤共同墓地及びリー女史墓所→門衛及 び重監房跡→重監房資料館→解散

(所要時間 約5時間)

参加者数:22名 ボランティアガイド:3名

・2021年度企画展「重監房を報道した男 関喜平展」トークイベントを開催した。

実施日:2021年9月11日

会場:レクチャー室(オンライン配信形式)

参加者数:48名

登 壇: 関光氏(故関喜平氏令息)、江尻潔氏(故関喜平氏令孫)、黒尾和久重監房資料館部長

実施概要:特別病室(重監房)の存在をスクープとして世に知らしめた新聞記者、故関喜平氏の

親族である関光氏と江尻潔氏を迎え、オンライン配信によるトークイベントを開催し た。関喜平氏個人についてや、もっと早く、らい予防法廃止に至らしめることができ なかった自身の執筆への悔恨などのエピソードの他、トークイベント開催の直前に『特 別病室』の直筆原稿が発見され、企画展会期後半の展示資料に加えられるなどの成果 も収められた。

実話小説『特別病室』の復刻をした。

2021年度企画展「重監房を報道した男 関喜平展」で複製展示した雑誌『大衆クラブ』版の瀬木 悦夫(関喜平)の実話小説『特別病室』の復刻をした。

発行:2022年3月31日

部数:3,000部

## 5. 学校教育支援活動

#### 1) 学校教育への支援

- ・立教大学異文化コミュニケーション学部 2021年度講義「エスニシティとナショナリズム」において、 黒尾和久部長が「『暴力』に気づく『感受性』をもつために~ハンセン病問題から考える~」と題 した講義を行った。(於:立教大学 ※Web講演、2021年6月11日)
- ・獨協医科大学1学年リベラル・スタディ「ハンセン病と原発事故から学ぶもの」において、黒尾 和久部長が「ハンセン病患者人権回復後の諸問題」と題した講演を行った。(於:獨協医科大学、 2021年10月6日)

#### 2) 学校・教育委員会への公報活動

新型コロナウィルス感染防止のため、群馬県内外の市町村等の外部への訪問は自粛をした。

#### 3) 学校団体来館

新型コロナウィルス感染防止のため、館内見学者数の上限を設け、また学芸員による展示解説を 休止したため、各学校側における見学自粛の傾向が見られた。

・小学校、中学校、専門学校、大学計22団体、223人が来館した。

## 6. 広報活動

### 1) レンタルDVDの貸出

当館広報用DVD「重監房資料館への道」、ハンセン病人権啓発映像「遺族ふたり」の随時貸出を行った。

## 7. 栗生楽泉園との連携

#### 1) 栗生楽泉園・重監房資料館双方を見学する来館者への対応

・栗生楽泉園と重監房資料館の両方を見学する来館者対応について、栗生楽泉園福祉課の見学担当者 との連絡を励行した。

#### 2) 栗生楽泉園新採用者オリエンテーションへの協力

・新型コロナウィルス感染防止のため、毎年行われていた4月1日付採用職員に対する研修講演等は 自粛され、行われなかった。

#### 3) その他

なし

## Ⅲ 再現·展示機能

## 1. レクチャー室

#### 1) ガイダンス映像の上映

- ・一般向けガイダンス映像「重監房の記憶」を上映した。(約25分)
- ・小・中学生向けガイダンス映像「楽泉園の子供たち」を上映した。(約18分)

#### 2) その他の利用

各種研修・学習会等に利用した。(新型コロナウィルス感染防止のため、極力自粛をした。)

#### 3) その他

・「谺文庫」の公開

レクチャー室に谺雄二氏の寄贈図書についての図書コーナー「谺文庫」を公開し、随時、図書整理を行った。(2020年度より継続中)

## 2. エントランス・ホワイエ

#### 1) ハンセン病に関する展示

ハンセン病について解説したパネルと治療薬の展示及び「昭和20年代の栗生楽泉園全景パノラマ写真」(重監房を含む)のほか、常設展示(「ハンセン病について」、治療薬サンプル)、企画展示(黒崎彰写真展序章部)を行った。

#### 2) 普及啓発コーナー

新聞や雑誌の関連記事とともに、関係啓発施設や近隣災害情報、厚労省の公報等、必要なお知らせについて掲示した。

#### 3) その他

展示資料の保全、新型コロナウィルス感染防止を目的に、資料周辺への接近、接触回避のための結界や案内表示設置を施した。

### 3. 常設展示

#### 1)第1展示室

#### ■特別病室(重監房)のジオラマ

縮尺20分の1の再現模型を展示し、特別病室(重監房)の全体像や立地の俯瞰的学習を可能にした。

#### ■収監者のパネル

93人の収監者のプロフィールをパネル化し、時系列に沿って展示することで、収監実態が分かるよう工夫した。

#### ■再現映像の上映

現存する資料や入所者の証言に基づき、収監者の特別病室(重監房)内での様子を再現した映像を上映した。(約8分)

#### ■実寸大で部分再現された「特別病室(重監房)」の内部

医務室や独房につながる通路、夏と冬のふたつの独房を実寸大で忠実に再現した。また、学芸員が同行する館内ガイドツアーでは、見学者は実際に再現された独房の内部に入り、扉の閉鎖や施錠された時の絶望感を体感できるようにした。加えて、立地条件をリアルに体験できるよう、昼間と夕暮れの日差しの雰囲気を照明機器を自動的に調整し、臨場感を演出した。

(新型コロナウィルス感染防止のため、館内ガイドツアー、独房内部への立ち入っての見学は中止をした。)

### 2)第2展示室

### ■ハンセン病問題の年表

我が国におけるハンセン病問題にまつわる主な出来事を、明治時代以降を年表にして時系列に掲示した。また、日本ニュース社が昭和22年に撮影した実際の特別病室(重監房)の映像視聴ができるようにした。

#### ■出土遺物発掘報告コーナー

遺物を通して特別病室(重監房)の過酷さを伝えることを目的に、特別病室(重監房)跡地の発掘調査によって出土した遺物と解説パネルの展示を行った。南京錠の実物大写真、独房内の便槽写真、建材である木片、弁当箱、差し入れ品などを展示した。

#### ■証言映像コーナー

複数の元患者の証言映像の視聴ができるようにした。

#### 3)展示の更新

### ■レクチャー室

- ・レクチャー室の壁面を利用して、資料展示として公開を始めた。
- ・ガイダンス映像の字幕修正を行った。(制作・修正: ㈱オフィス・モト 登場者役職変更、聴覚障害者対応も含む。)

#### ■エントランス・ホワイエ

・照明レール、調光設備を施工し、資料展示空間としての環境整備を行った。展示エリアとして整った環境になったことにより、随時、資料展示を行い、展示替も行った。

#### ■第1展示室

・再現映像の字幕を追加した。(聴覚障害者対応も含む。)

#### ■第2展示室

- ・照明の調光設備を施工し、展示演出効果を高めた。
- ・展示資料の増加に伴い、展示可動壁や大型モニターを使った動画等(特別病室(重監房)跡発掘記録動画他)を活用して、随時、展示手法、レイアウトの変更を行った。

## 4. 企画展示

・企画展「重監房を報道した男 関喜平展」開催。

会 期:2021年7月21日~12月26日

場 所:第2展示室

来館者数:1,499人

作品数:23点(9月28日~12月26日は22点)

特別病室(重監房)の存在をスクープとして世に知らしめた新聞記者、関喜平を紹介する企画展を行った。昭和22年8月26日に上毛新聞、27日に毎日新聞で掲載された記事は、国会で取り上げられ、特別病室(重監房)が廃止されるきっかけとなった。以後、瀬木悦夫というペンネームで雑誌『大衆クラブ』に〈実話小説 特別病室〉を、さらに昭和25年に『特別病室』を出版し、企画展ではとくにこの『特別病室』にスポットをあて、関喜平の新聞記事とあわせて昭和22~26年頃までの栗生楽泉園の様子、親族の方から寄贈頂いた「要求書の回答記録」をはじめ写真やスクラップブック等とともに展示をした。

## 5. その他

・市販玩具ブロックを利用、製作した児童向け監禁室模型を展示した。 各展示エリアの照明デザインについて、業者と検証、随時更新した。(2019年3月より継続中)

## Ⅳ 情報発信機能

## 1. ホームページ

- ・2021年度ホームページアクセス数は47,478件であった。
- ・新着情報の追加掲載、外部へのリンク追加等を行った。
- ・その他、各ページのメンテナンスを行った。

重監房資料館 ホームページ https://www.nhdm.jp/sjpm/

## 2. 広報資料の作成・発行

- ・資料館だより『くりう』No. 17を発行した。(2021年7月16日 10,000部)
- ・資料館だより『くりう』No. 18を発行した。(2021年11月13日 10,000部)
- ・資料館だより『くりう』No. 19を発行した。(2022年3月19日 10,000部)
- ・リーフレット増刷 (2021年8月11日 12,000部)。
- ・夏期企画展チラシ発行(2021年6月30日 5,000部)。
- ・夏期企画展チラシ (会期延長分) 発行 (2021年10月14日 5,000部)。
- ・「実話小説『特別病室』の復刻」発行(2022年3月31日 3,000部)。
- ※資料館だより『くりう』は、各ハンセン病療養所、関係者、関係機関、団体に、毎号約6,000部を配布した。

## 3. マスコミ対応

・マスコミ各社からの取材対応を行った。

テレビ 2社

新聞社 11社

その他 3社他

## 4. その他

- ・希望者や旅行会社等に対し、リーフレット、チラシ等を送付した。(随時)
- ・新型コロナウィルス感染防止のため、群馬県内外の自治体、観光関係施設等の外部への訪問は自粛 をした。

## V 管理機能

## 1. 新型コロナウィルス感染防止対応

新型コロナウィルス感染防止のため、主に以下の対応を行った。

- ・開館時間の縮小(フルオープン期 9:00 ~ 16:00、冬期予約期間10:00 ~ 15:30 → 一律10:00 ~ 15:30で対応)
- ・館内見学者を下記のように制限。

4月1日~10月31日…常時9人以下

11月2日~1月30日…常時20人以下

2月1日~3月31日···常時10人以下

- ・来館者への検温実施、マスク着用の要請
- ・消毒用アルコールの設置
- ソーシャルディスタンスの確保
- ・ 団体解説の自粛
- ・展示資料接近、接触回避のための各種案内表示設置
- ・館内消毒の励行(机、いす、筆記用具他)

## 2. 施設運用のための必要機能の整備

#### 1) 施設整備・更新

資料館の施設の機能、サービスの提供が良好に行われるよう、設備等の点検、保守、修理交換作業、報告、訓練等を行った。

- ・エントランス・ホワイエ照明レール、調光設備、第2展示室照明調光設備を施工(2022年1月17日  $\sim$  31日 %このうち1月18日  $\sim$  30日は臨時休館)
- ・植栽定期メンテナンス (2021年8月19日~20日)
- ・法定設備点検の実施(2021年11月12日)
- ・消防用設備機器点検(2021年10月14日)、ならびに消防訓練、消防用設備総合点検(2022年3月17日)の実施
- ・館内空調定期点検、館内環境測定の実施(2021年11月18日~19日)
- ・廃棄物処理対処(栗生楽泉園から業者への委託変更)(2022年2月分から)
- ・水道管水質問題調査、対処(2021年1月より継続中)
- 屋根上点検 (随時)
- 夏季における除草、植栽等環境整備
- ・冬季における除雪、防風雪対策、屋根上降雪前点検(樋ヒーター交換他)・簡易清掃
- ・物品の無償貸付の申請等の厚生労働省へ提出
- ・水道管、映像機器、トイレ、自動ドア、温湿度管理機器等各種機器故障交換対処

## 2) 博物館施設、関係機関との連携活動

- ・オンラインミュージアムトークに参加をした。(2021年4月24日)
- ・新人学芸員連絡会に参加をした。(2021年5月14日)
- ・虫菌害講習に参加をした。(2021年8月4日)
- ・学芸員連絡協議会Web会議に参加をした。(2022年2月25日)
- ・日本博物館協会、群馬県博物館連絡協議会等、関係各種事務手続き等を行った。

## VI 2021 年度利用状況

#### 1) 開館日数

2021年度(2021年4月1日~2022年3月31日)の開館日数は、290日であった。

### 2)入館者数

2021年度の各月入館者数、及び各月の開館日に対する1日あたり平均入館者数は以下の通りであった。

※ 新型コロナウィルスに関する緊急事態宣言及び感染防止対策継続の必要性等の理由により、以下の通り館内見学者数制限を行った。

2021年4月1日~10月31日 9人まで

2021年11月2日~2022年1月30日 20人まで

2022年2月1日~3月31日 10人まで

※ 2022年1月18日~1月30日 館内照明工事のため、臨時休館

	入館者数(人)	開館日 (日)	1日平均(人)※	備考
4月	147	25	5. 88	
5月	174	26	6. 69	
6月	122	26	4. 69	
7月	198	27	7. 33	フルオープン期間
8月	326	26	12. 54	(4月26日~11月14日)
9月	243	25	9. 72	
10月	343	27	12. 7	
11月	371	23	16. 13	
12月	117	23	5. 09	
1月	27	12	2. 25	
2月	40	23	1. 74	
3月	97	27	3. 59	
合計	2, 205	290	7. 6	

※「1日平均」入館者数は小数点第3位を四捨五入

【入館者数平均】7.6人/日

【団体利用状況】253団体886人 (学校団体:22団体223人)

## 利用案内

## 国立ハンセン病資料館

#### 【交通アクセス】

- ・西武池袋線清瀬駅南口から、久米川駅北口行きバスで約10分(「ハンセン病資料館」下車すぐ)
- ・西武新宿線久米川駅北口から、清瀬駅南口行きバスで約20分(「ハンセン病資料館」下車すぐ)
- ・ JR 武蔵野線新秋津駅から、久米川駅北口行きバスで約10分(「全生園前」下車、徒歩約10分)、または 徒歩約20分
- ・西武池袋線秋津駅より徒歩約20分
- ・関越自動車道所沢インターチェンジから車で約30分

### 【開館時間】

午前9時30分~午後4時30分(入館は午後4時まで)

#### 【休館日】

毎週月曜日(祝日の場合は開館)、国民の祝日の翌日、年末年始、館内整理日

#### 【入館料】

無料

〒 189-0002 東京都東村山市青葉町 4-1-13



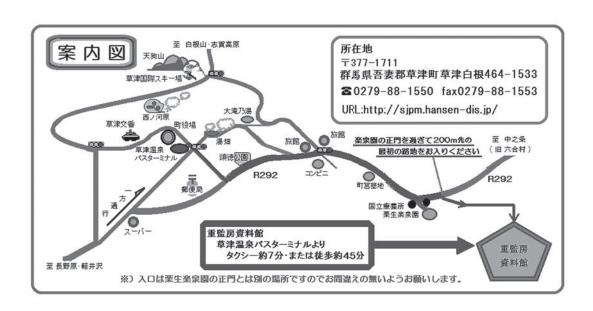
電話 042-396-2909 FAX 042-396-2981

URL:https://www.nhdm.jp/

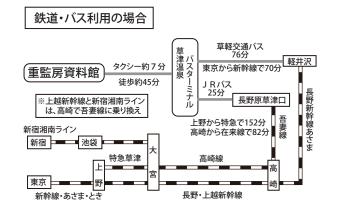
## 重監房資料館

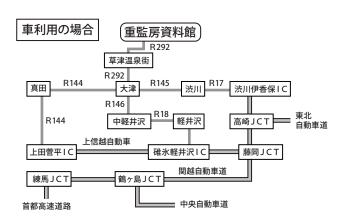
区分	フルオープン期間	冬期予約期間		
区刀	$(4/26 \sim 11/14)$	$(11/15 \sim 4/25)$		
受付対象	個人及び団体・学校	個人も事前予約制		
月日 会会 0土 月日	午前9時30分~午後4時00分	午前 10 時 00 分~午後 3 時 30 分		
開館時間	(最終入館3時30分)	(最終入館3時00分)		
休館日	毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、国民の祝日の翌日、年末年始、館内整理日			

入館料:無料



#### 交通アクセス





〒 377-1711 群馬県吾妻郡草津町草津白根 464-1533

電話 0279-88-1550 FAX 0279-88-1553

URL : https://www.nhdm.jp/sjpm/

## 国立ハンセン病資料館 重監房資料館 2021 年度 年報

2022 年 12 月1日 発行 編集・発行 国立ハンセン病資料館 〒 189-0002 東京都東村山市青葉町 4-1-13

電話 042-396-2909 FAX 042-396-2981

 ${\sf URL:https://www.nhdm.jp/}$ 

